

おもしろまちうちライブラリー 【蔵書一覧】

2023年7月更新

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
1	福祉のまちづくりデザイン 阪神大震災からの検証	福祉のまちづくりの問題や課題、デザイン方法を阪神大震災を経験した障害者、支援者の生の声をもとに抽出。研究者、行政の連携による「福祉のまちづくり」をトータルに充実させるための提言。	田中直人 著	学芸出版社	1997/2/20
2	まちづくりキーワード事典	まちづくりの新しい流れを総合的につかむことができ、まちづくりを担当している行政やコンサルタント、また、これから学ぼうとする学生や市民に必携の事典。	三船康道+まちづくりコラボレーション 著	学芸出版社	1997/3/20
6	現代アメリカ都市計画 土地利用規制の静かな革命	60年代、70年代の社会運動を機に変革を遂げたアメリカ都市計画。この変革のプロセスを体系的に描く。環境保全・社会的公正を目指す民主主義の都市計画に向けた試み。	大野輝之 著	学芸出版社	1997/4/25
7	地域共生の都市計画	都市計画の基本的な仕組みを解説。環境、歴史、市民参加、景観、福祉、活性化、など、都市政策・まちづくりにかかわる近年の計画技法等を紹介する実務書。	三村浩史 著	学芸出版社	1997/1/25
9	歴史的遺産の保存・活用とまちづくり	文化財登録制度等と遺産や地域としての活用手法を研究者・実務家が執筆。歴史的遺産のうちの建物と町並みを中心に、各地の「まちづくり」でその保存と活用に努力されている方や、これからそれを始められる方の手引として作成された本。	大河直躬 編	学芸出版社	1997/6/25
10	都市の歴史とまちづくり	1994年4月、建築史学会が開催したシンポジウム「都市の歴史の継承とまちづくり」。その討論会の記録に価値基準や基本原理などを扱った総論的な論文と具体的な実施手法や制度などの解説を加えた実践的な手引き。	大河直躬	学芸出版社	1995/7/20
11	都市計画論	都市計画とは良い都市を実現するために人間が発明した道具、その性能を引き出すのは使い手の腕である。使い手がどのように道具を用いるかも含めて都市計画と呼ばれている。道具の使用が効果をあげるかは対象次第。本書は、放送大学の授業「都市計画論」の教材。	阪本一郎 著	(財)放送大学教育振興会	1996/9/20
12	土地区画整理用語集 区画整理のこぼれ	区画整理で用いている言葉は特殊性があり、権利者になじまれていない。区画整理の用語というよりも、区画整理のこぼれを整理したもの。参考書というよりも、気軽に読めるもの。	清水浩 編著	東京法経学院出版	1997/1/20
13	みちまちアメニティー 地区交通計画の考え方と実践	各地区の固有な特性を生かしたきめ細かな道路づくり全般を「地区交通計画」と位置づけ、全国各地で実施される地区レベルの道路整備のガイドブックとして三部構成でまとめたもの。	建設省都市局都市交通調査室 監修	(社)日本交通計画協会	1987/8/1
14	【平成8年度版】 都市づくりガイドブック その事業手法の解説と実践例	全国の都市づくりの事例を紹介、その事例の事業主体、概要、背景、計画の内容、利用状況、整備・管理上の問題点、今後の課題を記載、全体事業費特に財源内訳、完了までの経緯、他の類似事例等を図面、写真等で説明。都市づくりを検討するときの参考資料。	建設省都市局 監修	第一法規出版(株)	1997/5

おもしろまちうちライブラリー【蔵書一覧】

2023年7月更新

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
15	NPOとまちづくり 明日へジャンプ！ まちをささえる市民事業体	全国の先進的な事例紹介を中心しつつNPOの意味や重要性についてまとめたもの。行政指導のまちづくりの限界と市民活動の在り方、NPOの意味と重要性について全国の事例を中心に紹介。	NPOとまちづくり研究会 著	(有)風土社	1997/6/15
16	高齢者とまちづくり ともにイキイキ！ まちと住まいと生きがいと	人にやさしいまちづくりに向けての各地の取り組み紹介。高齢者が、自らまちづくりの担い手として積極的に活動している例も上げている。みんながともに住み、ともに生活できるまちに、どうしたらできるか、と考えた事例。	高齢者とまちづくり研究会 著	(有)風土社	1997/6/15
17	子どもとまちづくり 面白さの冒険ー	子供の視点をまちづくりに反映させる手法やまちや人との関わりを通じて子どもの心や創造力を育成する手法を、事例紹介しながらまとめたもの。	子どもとまちづくり研究会 著	(有)風土社	1996/8/8
18	検証 イギリスの都市再生戦略 都市開発公社とエンタープライズ・ゾーン	1980年代以降にイギリスが取り組んだ地方都市活性化戦略2つの手法について、その社会的、経済的、また政治的な背景をさぐり、それぞれの都市でどう適用され、どんな経過をたどったか、現時点で見た成果は何かをまとめたもの。	イギリス都市拠点事業研究会 著	(有)風土社	1997/7/1
19	まちづくり読本 まちづくりを楽しもう パートナーシップ型まちづくりに向けて	住民と行政と企業によるパートナーシップ型まちづくりの全国的事例を紹介。	パートナーシップ型まちづくりシステム研究会 編集	(株)毎日企画サービス	1995/6/10
20	都市と市民参加	地域社会の中での社会関係や生活様式は、いま急速に「都市的」なものに変貌し、都市・農村の枠をこえて、社会全体の規模で「都市化」が進んでいる。横浜と川崎を例に、都市化社会の特徴を浮き彫りにし、都市が直面するさまざまな課題を解決するための「計画」のあり方と、「市民参加」の可能性や有効性、行政の果たすべき役割などを新しい視点で提言。	河村十寸穂 斎藤昌男 原純輔 著	(株)有隣堂	1989/8/30
21	地方拠点都市地域整備必携	地方拠点都市地域の整備及び産業業務施設の再配置の促進に関する法律(地方拠点法)は、自立的成長の促進と国土の均衡ある発展に資することを目的として制定され、全国で44地域が指定を受け、基本計画の作成、法に基づく整備が始まっている。地方拠点法とその支援施策、関係法令、通達、これまでに指定された44地域の概要等を集成。	地方拠点研究会 編集	(株)ぎょうせい	1995/8/10
22	全国市町村長が推薦する 地域づくり成功事例集	地域公共団体の首長の方々の地域づくりに対する意識等を取りまとめ、「地域づくりの成功事例」並びに「地域で誇りとする施設」に関し、各々100の事例について、ジャンル別に分類し、成功要因等を紹介。	(財)全国建設研修センター 編集	(株)ぎょうせい	1996/2/15
23	新時代のまちづくり・みちづくり 安心して豊かな都市をめざして	都市計画中央審議会の答申(H9.6.9)の趣旨、内容について解釈・説明。今後の都市交通施設と市街地の整備のあり方。	都市整備研究会 編著	(株)大成出版社	1997/12/10

おもしろまちうちライブラリー【蔵書一覧】

2023年7月更新

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
27	街づくりの発想 (商店街・都市居住・再開発)	都市における商業活動、都心居住をたいせつにした街づくりを目標として選択をすべき時期、このための政策の考え方等を提言。	藤田邦昭 著	学芸出版社	1995/3/20
28	都市住宅ルネッサンス	都市定住住宅の大量供給、都市住宅環境の大幅改善を演出する住宅地審議会の注目のレポートを解説。	市街地住宅研究会 編	(株)ぎょうせい	1989/11/7
29	協議型まちづくり 公共・民間企業・市民のパートナーシップ&ネゴシエーション	近代都市計画が「行政が事前に確定的なプランを用意し、それによって民間を規制した」ものであったとすれば、80年代から各国で起こった新しい動きは「行政と民間企業や市民との協議によるフレキシブルなまちづくり」であった。欧米各国と日本におけるこの新しい潮流の仕組みと実際の運用をまとめた。	計画システム研究会 編集	学芸出版社	1994/5/25
30	都市と高齢者 〔高齢社会とまちづくり〕	高齢者の基本的な心身特性や行動特性を踏まえつつ、都市の施設の改善の方針や高齢社会に向けた地域のまちづくりの考え方とその計画の進め方について具体的に解説。	高齢社会とまちづくり研究会 編集	(株)大成出版社	1994/7/3
31	はじめよう！我がまちづくり 土地区画整理事業のすすめ	区画整理の制度・手法等、大概をわかり易く解説した入門書。	(財)東京土地区画整理協会	(社)全日本土地区画整理士会	1994/3/15
32	まちづくりイベント・ハンドブック	まちづくりの様々な段階に応じて行われているイベントを紹介。個別のイベントのやり方について解説。	まちづくりイベント研究会 編著	学芸出版社	1996/1/25
33	いきいき「わがまち」、みんなの手で！	まちづくりとは何か、いかに楽しみながらやるかを、具体例やイラストなどをまじえ、分かり易く解説。	まちづくり七人委員会 編集	(株)ぎょうせい	1996/5/15
34	市民のためのまちづくり入門	これからまちづくりを始めようとする人、もうひとつ分からないという人のために、まちづくりの考え方・ポリシーを伝え、都市計画をはじめとする制度・技術の大略を分かりやすく解説した入門書。	吉野正治 著	学芸出版社	1998/6/20
35	英国都市計画とマスタープラン 合意に基づく政策の実現プログラム	徹底的な合意形成プロセスを経て作られる英国のマスタープランは、失業、住宅、景観、環境、福祉など、様々な問題への社会的な価値判断を伴った政策方針であり、都市の変化を望ましい方向に導くためのプログラムである。経済優先でもなければ、物的な環境の向上のみを目的とするのでもない、新しい都市計画のあり方を示す。	中井検裕・村木美貴 著	学芸出版社	1998/3/10
36	駅とまちづくり ひと・まち・暮らしをつなぐ	駅と鉄道をとりまく情勢が変化しつつある。21世紀の日本は、環境重視、省エネルギーの観点により自動車からマストラへの重心移動が、また高齢化社会を控えて駅前指向、都心指向が叫ばれはじめています。本書では、各分野のプランナー達が、これからのまちづくりの中核的存在に駅を据えて、現状が抱える問題とその将来を探った。	インターシティ研究会 編著	学芸出版社	1998/6/20

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
38	生き残る街づくり 都市・商店街・再開発	都市の活性化は商店街などストックとしての商業の活力を活用を巧く組み合わせることが成功の鍵である。本書は成功例と失敗例を比較して、その要因を探り、市民に親しまれる街の雰囲気をつくり方、業種構成への考察、イベントや空間の演出など街づくりに不可欠な事柄を大胆に提案する。商店街関係者、都市開発関係者の必携書。	藤田 邦昭 著	学芸出版社	1990/3/20
40	まちづくり条例 その機能と役割	独創的な地域づくりを進める自治体の条例45例を検証。制定の理念、背景、効果を分析し、制定までの努力を探る。	井上 繁 著	(株)ぎょうせい	1991/9/20
41	中心市街地活性化法の解説	中心市街地整備改善活性化法の各条文についての解説ほか、政令、関係省令、基本方針等を掲載。	通商産業省産業政策局中心市街地活性化室 編		1998/10/12
42	僕たちの街づくり作戦	街づくり計画に住民が積極的に参加するための手法が掲載。	マイケル・ノートン 著	都市文化社	1993/11/1
43	都市づくり条例の諸問題	条例制定権の限界、都市計画法・建設基準法との関係、負担金の性格等の問題を中心に、条例の許容範囲を法学的観点から検討し、とりまとめたもの。	成田頼明 編著	第一法規出版(株)	1992/1/20
44	よみがえれ街の顔 中心市街地の活性化	都市型産業の振興と中心市街地の活性化に関する座談会、工業立地及び工業用水審議会中間報告、中心市街地活性化対策の概要、中心市街地整備改善活性化法の全文などを掲載。	通商産業省 編集	(財)通商産業調査会出版部	1998/2/15
45	中心市街地における市街地の整備改善及び商業等の活性化の一体的推進に関する法律逐条解説	中心市街地整備改善活性化法の各条文についての解説のほか、政令、関係省令、基本方針等を掲載。	建設省都市局 監修	(財)都市計画協会	1999/1/20
46	中心市街地活性化戦略 地球環境時代の都市像を求めて	中心市街地活性化の方向性、諸課題に対する取り組み、関連法制度・支援策の概要、関連支援策の実践的活用方法、支援する制度に関するQ&A等を掲載。	中心市街地活性化研究会編集	ケイブン出版(株)	1998/9/30
47	甦れ、街なか。 中心市街地活性化読本 I, II, III, IV	中心市街地活性化の意義と内容、ビジョンづくり、ビジョンを具体の施策に結びつけるための方策・手段等の戦略づくりのヒント、13省庁の中心市街地活性化関連施策の概要等を掲載。	(財)区画整理進機構街なか再生全国援センター 発行編集		I 1999/8/1 II 2001/11/1 III 2003/3/1 IV 2002/6/10
48	スーパーおやじの痛快まちづくり	ゴミ・リサイクル問題も、子どもたちの問題も、町の活性化も一挙に解決！「あの乙武洋匡の育ての親」と言われる食料品スーパーの名物おやじがニッポン中を巻き込んで、楽しくて儲かる「まちづくり」を実践中。読めば絶対、元気が湧いてくるぞ！	安井潤一郎 著	(株)講談社	1999/8/26
49	ゼロエミッションからのまちづくり 早稲田商店街のビッグバン・ドキュメント	リサイクルは商店街活性化のビッグチャンス！！「楽しいこと」と「もうかること」、これがキーワード。「グローバルに考え、地域で行動する」	早稲田いのちのまちづくり実行委員会 著	(株)日報	1999/4/30

おもしろまちうちライブラリー 【蔵書一覧】

2023年7月更新

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
50	リゾートという分野の「日本の顔」に未来はあるか 「聖地」軽井沢 —改訂版—	軽井沢を並のリゾートや単なる田舎暮らしのまちにしまうことを懸念して、時として厳しい指摘となって表現されている箇所もある。軽井沢に対する私たちの強い愛情と思い入れが、今後も軽井沢が「聖地」軽井沢でありつづけることのポリシーをしてこうした表現となったものである。	山浦瑛子・山本喜則 著	(株)税務経理協会	2001/5/1
51	東京都市計画物語	栄光と挫折の歴史 世界的な大都市へと成長したTOKYO。だが、バイタリティあるれる華やかな東京を都市基盤から見ると帝都復興・戦災復興の遺産が喰い潰されてきた痛々しい姿が浮かび上がってくる。	越澤明 著	(株)日本経済評論社	1996/12/16
52	2025年のわがまち 生き残るための都市戦略論	限られた公共資金を使いながら、できるだけ多くの民間資金を引き出す都市経営が市政の第1の課題となる。これからの四半世紀、高齢化社会型のビジネス機会を創り出す、市民参加型の都市づくりを、地方都市は続けていくことになる。本書は、高齢化社会を生き残るための都市経営戦略を明らかにしたものである。	地方の拠点まちづくり協議会 編集 伊藤滋・真島一男 監修	(株)ぎょうせい	2001/6/1
53	ぼくらのまちは、ぼくらでつくろう！ ぼくたちのまちづくり 全4冊	君たちが今住んでいる町は住みやすいかな、何か問題はないかな？自分たちの住む町は自分たちで楽しい町にしたいね。世界の町とくらべたり、あちこち探検したりして、建物や町並のことを調べていきます。生き活きた楽しい絵を見ながら、町をどのように変えていったらよいか、いっしょに考えよう。	福川裕一 文・青山邦彦 絵	(株)岩波書店	1999/9/24
54	田園リゾートの時代 グリーンツーリズムとその底流	今、アメリカやヨーロッパでは、田園リゾートが、アウトドア・ライフの最先端。都会の人も田舎の人も、グリーン・ツーリズムの現状を知ること新しい時代の価値基準がわかる！	金子照美 著	(株)清水弘文堂書店	1996/8/31
56	市民参加のデザイン 市民・行政・企業・NPOの協働の時代	地域の人達が、ただ自分達の不満や問題をつぶやいているだけでは思いはかたちにはならない。「つぶやき」を「かたち」に、すなわち社会システムに変えてゆくために、私はプロセス計画論を土台にして、私自身が創造した「参加のデザイン」という理論と方法で参加型のまちづくり、地域デザインを始めていく、という方向性をつがんだ。	世古一穂 著	(株)ぎょうせい	1999/2/20
57	バリアフリー	高齢者や障害者の生活を阻むバリア(障壁)には、住宅、地域施設、交通・都市環境における物理的障壁と、人間の意識・態度の中の心理的障壁と、制度や種々のプログラムの中の社会的障壁がある。これらの障壁をなくすことが、バリアフリーであり、21世紀に日本が迎える超高齢化社会に生きる人々に課せられた緊急課題である。	野村みどり 著	慶應義塾大学出版会(株)	1996/10/30

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
59	子どもはどこで犯罪にあっているか 犯罪空間の実情・要因・対策	4人の幼女が犠牲になった宮崎事件。神戸の「酒鬼薔薇」事件。京都の小学校の校庭での生徒殺害事件……。それらは氷山の一角にすぎない。その底辺では、たくさん子どもたちが暴行や恐喝や痴漢などの犯罪にあっている。公園・道路・商店街・駅・駐車場・集合住宅の敷地内など、子どもが実際に被害にあった場所の実施調査にもとづき、多数の写真と地図をまじえて、街の中にひそむ危険な要因を指摘し、対策を提案する。	中村攻 著	(株)晶文社	2000/6/10
60	安全・安心まちづくりハンドブック ～防犯まちづくり編～	新しくまちをつくる時、既成の市街地を作り直す時、いずれの場合にも、防災と防犯を考慮したまちを創ってゆくためには、まちづくりの計画をする段階から、まちづくりの関係者と警察関係の人たちが一緒に知恵を出し合うことが重要な鍵となります。本書は、防犯と防災を含めた安全なまちづくりのための手法を掲げた、大変に画期的なまちづくりのガイドブックとなっています。	安全・安心まちづくり研究会 編集	(株)ぎょうせい	2000/7/15
61	安全・安心まちづくりハンドブック ～防犯まちづくり実践手法編～	本書は、防犯の視点をまちづくりに反映するにあたっての方向性や留意点をまとめた「安全・安心まちづくりハンドブック～防犯まちづくり編～」の続編であります。先進地区での実態調査を通じて防犯に配慮したまちづくりの事例をできるだけ多く記載することに努め、防犯まちづくりの実践手法を示した、安全で安心なまちづくりのためのガイドブックとなっております。	安全・安心まちづくり研究会 編集	(株)ぎょうせい	2001/5/30
62	参加のデザイン工具箱 ・part1 ・part2 プロセスデザイン:事例とワークショップ ・part3 ファシリテーショングラフィックとデザインゲーム 全3冊	この本では、具体的な計画づくりや設計作業に役立つ参加型まちづくりの方法論がテーマとなっています。言い換えると、一般の人から見ると専門領域のブラックボックスとしてとらえられがちな計画づくりや設計作業を、いかにガラス張りにし、参加可能なものにしていくかの手法と工夫に焦点を置いていきます。この本を、ワークショップを計画するマニュアルとして活用していただいても良いでしょう。		(財)世田谷区都市整備公社まちづくりセンター	①1993/8 ②1996/3 ③1998/10
63	NPO実践講座 いかに組織を立ち上げるか	思いを込めて丁寧に組織をつくる。今、日本のNPO界でもっとも大事なことは、このことではいだろうか。逆に言えば、十分に思いを込めることのない雑な組織づくりが、最近になって拡がりつつあるのではないかという懸念があることだ。組織の立ち上げは重要である。そのことを、もう一度しっかりと考えてみたい。	山岡義典 編著	(株)ぎょうせい	2000/11/20
64	わたしの地元学 水俣からの発信	あたらしい地域づくりの実践。地元の自然、風土、産物、伝説、出来事などを歩いて、探して、調べて、まとめる。地元、地元による、地元のための情報づくりから活力ある地域づくりが始まる。	吉本哲郎 著	(株)NECクリエイティブイ	1995/6/12
65	都市計画通論 (第2版)	あらゆる分野から都市計画に関わろうとする人たちのために、その概要を技術面から記述。専門書ではなく都市計画の基本的な問題を広く取り上げている。	奥田教朝・吉岡昭夫	オーム社	1985/2/10

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
66	都市計画Ⅰ 建設行政実務講座3	建設行政についての理解を深めるための一冊。第一線において直接実務に携わる人たちにより、実務上必要な知識をわかり易く説明。建設行政の重要な分野がほぼ網羅されている。	建設行政実務研究会 編	第一法規出版(株)	1978/3/20
67	都市計画Ⅱ 建設行政実務講座4	建設行政についての理解を深めるための一冊。第一線において直接実務に携わる人たちにより、実務上必要な知識をわかり易く説明。建設行政の重要な分野がほぼ網羅されている。	建設行政実務研究会 編	第一法規出版(株)	1978/3/20
68	都市計画とまちづくり 一地区計画1問1答一	地区計画の運用に携わっている実務者によって1問1答形式でわかりやすくまとめられている。	都市計画研究会地区計画部会 編・著	(財)都市計画協会	1984/1/20
69	景観行政のすすめ	景観行政を始めようとする人に全国的な視点で、しかも実際の景観行政をすすめるノウハウを学べる有効なテキスト。都市行政のメリット・デメリット、担当する職員の問題についても率直に記述している。	日本都市センター		1987/7
70	都市政策の動向と展望'90s 都市白書1990-2000	まちづくりや都市開発に携わる方々はもちろんのこと、広く都市問題に関心を寄せる方々の、必読・必携の解説書。90年代の都市づくりに関する確かな情報の提供、参考となる提言等をまとめ、都市行政の課題と施策を体系的に整理している。	建設省都市局 監修 都市政策研究会編集	ぎょうせい	1990/12/20
72	計画的都市 農業への挑戦	1960年代後半、高度成長期に伴って、都市は爆発的に膨張した。その中で「都市農業」という言葉が生まれ、「農業のあるまちづくり」などが問題になってきた。本書は都市の自治体や農家・住民主体による都市農地の位置づけや都市農業政策のあり方を模索しようとするものである。	田代洋一	日本経済評論社	1991/7/30
73	土地改革のプログラム 都市への権利	政府が地価高騰のためにとってきた対策がどの程度功を奏し、また、どのような可能性を持っているのかを洗いざらい検証することを目的に書かれた一冊。地価の動向に左右されずに、土地の本来あるべき姿や土地問題正常化のためのオーソドックスな土地政策論を考える。	五十嵐敬喜	日本評論社	1991/5/20
74	集まって住むことは楽しいナ 住宅でまちをつくる	住まいは人間が人間らしく生きるための大切な場所。住宅でまちをつくることによって、一体どんな環境が実現できるのだろうか？ただの「集合」でなく、楽しさを共有しあえる「集住」を、どのようにつくりあげ、また、それを文化として実現していくかを多面的にアプローチ。	延藤安弘	鹿島出版会	1992/8/10
76	環境共生都市づくり エコシティ・ガイド	これからの都市づくりには身の回りから、地球規模に至る問題をふまえながら、都市全体の良好な環境の保持と創出が必要である。現在の都市環境問題を平易に説明しながら、その解決法を提示した本書は、これからの都市整備に携わる方々にとっては有効な一冊。	伊藤 滋 高橋潤 二郎 尾島俊雄 監修 建設省都市環境問題研究会 編集	ぎょうせい	1993/7/10

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
77	都市交通のはなしⅠ	都市交通とはどんなものなのかを計80話にまとめたうちの前半。 ラッシュで混むほど赤字が増えるわけや、地下鉄のトンネルの掘り方など、都市交通問題を広く、浅く紹介した入門書。	天野光三 編	技報堂出版	1993/8/5
78	都市交通のはなしⅡ	都市交通とはどんなものなのかを計80話にまとめたうちの後半。 渋滞はいつ、どこで起こるのか、楽しい道をつくる、など。都市交通問題への興味や関心をうみ出すきっかけや、考えの参考となる1冊。	天野光三 編	技報堂出版	1993/6/10
80	「首都圏問題」の位相と北関東	北関東は大東京首都圏の受け皿的機能を担うものとして位置づけられてきた。しかし、バブル崩壊後はそのような単純な発想を捨て、北関東、群馬は均衡、秩序ある国土形成の主体的担い手として積極的に関わっていく必要がある。この著書は、これからの国土形成を考える上での一助となるものである。	高崎経済大学付属 産業研究所 編	日本経済評論社	1994/3/30
81	「都市近郊」土地利用事典 '96-'97	地域で安定した土地利用を実現するためには、どのような方が考えられるかという問題意識から編集。「市街化区域」「市街化調整区域」の開発・整備・保全手法と実例を記載した、実務者や研究者のためのレファレンスブック。	建築知識	アーバンフリンジ研究会	1995/12/1
82	ぐんま美術館・博物館ガイド	知っているようで実は知らない、あるいは知っているも行ったことがない。群馬には数多くの美術館や博物館があります。このような施設を利用し、興味関心を深める上での手軽なガイドブックです。	群馬県教育委員会	上毛新聞社	1995/3
83	まんが 藤岡の歴史	藤岡市の原始古代から、近・現代までをまんがで楽しみながら理解できる。他に歴史年表や解説などもあり、わかりやすい。	田中正雄 漫画 藤岡市	上毛新聞社	1995/1/1
84	地球文明ビジョン 「環境」が語る脱成長社会	ポスト資本主義社会競争から共生へ。環境からの革命。文明の転換期に立つ今日、経済の仕組み、環境政策、消費のあり方、価値観等をトータルに見直し、真に豊かな社会を展望する。	古沢広祐	日本放送出版協会	1996/2/10
85	伊香保姫物語 伊香保温泉伝説	古くから伊香保に伝わる伝説をもとに構成された物語の絵本。伊香保神社や水沢観音の由来を知ることができる。	松崎 寛 保科久夫	伊香保書院	1998/10/20
86	フロンティアランナー 岐阜「夢おこし県政」の発想と戦略	「たかが一地方自治体の成功例じゃないか」と軽く受け流すなかれ。数ある優れたまちづくり運動の中から特に「岐阜モデル」を取り上げて、著者がこの書を世に問おうしたきっかけは、東京の情報の立ち遅れなどの恐怖に駆られてのことである。情報力を最大限に活用した住みよい社会を築くために努力を重ねた梶原拓岐阜県知事の姿を追う。	角間 隆	ぎょうせい	1996/9/20
87	孤の集合体	土地代や工事費を節約するためだけの集合住宅では、住まいの夢は何も満たされない。家族が長い人生を託すための住まいのよりよい仕組みは、戸建て住宅より集合住宅の中に隠されているはずだ。建築家として、「ひとり」から複数家族、あるいは家族の枠を脱け出た共同体のためのシステムを提案する。	渡辺真理・木下庸子	星雲社	1998/5/25

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
88	山里の釣りから	山里の労働と暮らしの文化を学びとり「流れる川」に荒廃をもたらした水資源開発と都市の生活を考える。山里の四季、釣りの楽しみを爽やかに綴りながら、自然と人間の関係、現代社会のあり方をとらえ直す、思索的エッセイ。	内山 節	岩波書店	1996/9/17
89	伊香保みやげ	大正8年に、東京神田の仲猿楽町にあった伊香保書院から、高木角治郎によって出版された『伊香保みやげ』の復刻本。明治・大正期の41人の文豪たちが語る、伊香保の思い出。	高木角次郎	伊香保書院	1996/10/20
90	開発許可制度の解説 改訂五版	都市計画法の改正に関する解説、運用方針を明らかにするとともに、改正以外の部分についても内容を一層充実させた、実務に役立つ解説書。	建設経済局民間宅 地指導室 監修	日本宅地協会	1997/9/20
92	風土工学序説	人に個性があるように、地域にも個性がある。土木という仕事は、地域の個性を生かす最大のチャンスを持っている。地域を主張させるコンダクターの役割を果たすのが、風土工学技術者である。本書では、土木に対する新しい見方が随所で展開されている。	竹林征三	技報堂出版	1997/8/25
93	都市デザインの手法 魅力あるまちづくりへの展開 (改訂版)	都市デザインとは、都市の公共領域のあり方を取り扱う方法である。本書は都市空間における建築のあり方や住民参加・環境共生など計画づくりのソフトな側面にも着目。都市デザイン、環境デザインを学ぶ人のための入門書でもあり、実際にまちづくりに取り組む人のための参考書にもなる一冊。	鳴海邦碩・田端 修・榊原和彦	学芸出版社	1998/8/20
94	横浜みなとみらい21 一創造実験都市一	みなとみらい21事業とは、港と街が一体となった都心をつくるという点で、開港時の街づくりの再現であり、その際生じた都市の歪みを是正しようとする、横浜再生のプロジェクトである。その事業に絶え間ない情熱を注いできた関係者の記録。地図と美しい写真で、みなとみらいのガイドブックとしても有効である。		(株)横浜みなとみら い22	2002/3
95	「丸の内」経済学 この街が21世紀の東京を牽引する	『丸の内』の再生は東京の再生であり、東京の再生は日本の再生である。ビジネスオフィス街から新しい可能性と出会う「多機能型都市」へ。変貌を遂げる新生「丸の内」の舞台裏を解説。	福澤 武	PHP研究所	2000/12/21
96	PFI 「政府」のアウトソーシング	「なぜPFIか」PFIが登場してきた背景、また、その有効性やリアリティを理解するための書。著者に対するインタビューや、研究班スタッフ各自がPFIの現場で経験したり考えたりしたことを綴ったフィールドワーク。	日本ウルトラ・エン 지니어リングPFI推 進班	プレジデント社	1998/12/25
100	水戸発 都市再生の実践的研究	水戸という地方都市を臨床例にして書かれた「都市再生」のための処方箋。水戸市・市街地整備局長などを歴任し、水戸駅前再開発事業をはじめさまざまな大型プロジェクトを率いてきた著者が、みずからの経験と見識のすべてをかけて、あらためて都市再生の可能性を問う書。		茨城新聞社	2000/5/29

おもしろまちうちライブラリー 【蔵書一覧】

2023年7月更新

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
101	都市はどこへ行くのか	初めに断っておくが、都市のことを考えることはそう小さなことではなく、私は安全保障などは勿論、不況対策や行政改革などと並ぶ、あるいはそれを越える、日本の将来を左右する重要なことだと考える(「まえがき」より抜粋)。自治体破産、中心市街地の空洞化など、破綻に瀕する都市の現状をレポート。	五十嵐敬喜	建築建料研究社	2000/5/3
102	浪漫列島「道の駅」めぐり	現在、全国で500カ所以上を数える「道の駅」。本書はその中のいくつかをピックアップし、「道の駅」を拠点とした、周辺の歴史や風土の探訪を目的としている。	田村喜子	講談社	2000/3/15
103	シリーズ・実学の森 都市、緑と農 「農」が担う地球の将来	この書で著者は、先進国の大都市は長い間農村を都市化してきたが、その過程で大都市から自然を排除するばかりでなく、農業の工業化によって農村の生態系まで破壊してきたと警告し、都市の農村化(生態系の回復)の復興を強く提言している。	進士五十八	東京農業大学出版会	2001/6/1
104	わかりやすい交通バリアフリー法の解説	高齢者、身体障害者の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律の解説。	交通バリアフリー政策研究会	大成出版社	2001/4/15
105	アメニティ・デザイン	「環境問題」に対して農学部的アプローチから“理想としてのアメニティ”に向かったの有効的展開方法を、著者自身の経験により論じられた書。	進士五十八	学芸出版社	2001/3/20
107	2025年のわがまち 生き残るための都市戦略論	限られた公共資金を使いながら、できるだけ多くの民間資金を引き出す都市経営が市政の第1の課題となる。これからの四半世紀、高齢化社会型のビジネス機会を創り出す、市民参加型の都市づくりを、地方都市は続けていくことになる。本書は、高齢化社会を生き残るための都市経営戦略を明らかにしたものである。	地方の拠点まちづくり協議会 編集 伊藤滋・真島一男 監修	(株)ぎょうせい	2001/6/1
108	マスタープランと地区環境整備 都市像の考え方とまちづくりの進め方	マスタープラン的なものを目指した様々な試みを振り返り、総合計画(基本計画)との関連において都市計画が都市の将来像をどのように捉え、描き出し、またその実現のための制度・手法をいかに開発してきたかを明らかにし、将来を展望する。	森村道夫	学芸出版社	1998/2/25
109	まちづくりチャレンジブック	まちづくりを推進するために、これからの担い手である子供達に、まちづくりへの関わりが如何に大切かを考えてもらい、また自分たちの暮らす地域や県・市町村全体について関心・興味が持てるよう、楽しみながら体験学習できる資料。総合学習などにおすすめの1冊。	発行 群馬県都市計画協会		
110	しずおかユニバーサルデザイン事例集 だれもが暮らしやすい社会をめざして	小物から施設まで、どんな人にとっても暮らしやすい社会を。ユニバーサルデザインの先進地・静岡県内の施設や同県内で製造されたモノなどを中心に取上げた事例集。ユニバーサルデザインについての理解を深めるための一助となるものである。	編集 静岡県企画部 ユニバーサルデザイン室	(財)共用品推進機構	2001/3

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
111	静岡県の再開発VOL. 5	静岡県では、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れながら、地域の特性や都市景観にも十分配慮した市街地の再開発に取り組んでいる。本書は、県の再開発事業の完了地区はもとより、現在、事業を進めている地区の概要や整備の方針等をまとめたものである。	静岡県都市住宅部 市街地整備室 編 集		2001/3
112	まちづくり条例をつくろう！ ～地域独自の土地利用制度づくり～	地域住民や行政が一丸となって、各地でまちを活性化させようという動きが活発になっている。法的な支援や意見調整の仕組みなどがあると、まちづくりはスムーズに進めやすいのではないか。本書は「まちづくり条例」の役割や内容、条例制定の進め方を手引きとしてまとめたものである。	まちづくり推進連絡 協議会		1999/10
113	入門 まちづくり条例 Q&A	まちづくり3法の具体的な内容は？何をもってまちづくり条例と いうのか？など、まちづくり条例や土地利用規制に関する基本的な疑問から構成された入門書。	まちづくり推進連絡 協議会		2001/11
114	まんが滝川一益と神流川合戦	神流川合戦は関東最大の戦と伝えられている。本書では合戦の様子とその戦乱の世を生きた滝川一益の生涯をまんがでわかり易く紹介している。また、商工会でこの合戦を歴史的遺産として年々まつりに取り入れられている新町の歴史も知ることができる。	新町商工会		1998/6/1
116	住民参加のみちづくり	21世紀のまちづくりには住民参加なしに進むとは考えられない。本書では神奈川県藤沢市で実践された住民参加での生活道路の改善への取り組みを紹介しながらこれからの住民参加型への提案・課題を示す。	秋山哲男ほか編著	学芸出版社	2002/6/20
117	都市計画の挑戦 ～新しい公共性を求めて～	経済界からは規制緩和を迫られ、市民からは開発業者の手先と誹られる都市計画。もう小手先の対応の積み重ねでは済まされない。少子高齢化と地球環境の時代にふさわしいまちづくりのための都市計画を大胆に提言する。	養原敬 他	学芸出版社	2002/3/20
118	ゾーニングとマスタープラン ～アメリカの土地利用計画・規制システム～	なぜ、日本では異常に地価が高騰したり、塩漬けの空地ができるのだろうか。なぜ歴史的な建物が簡単に壊されてゆくのか。そもそも日本では都市計画が機能しているのだろうか。『詳細・厳格・柔軟』なアメリカの都市計画システムの検討から『緩やか・あいまい・硬い』日本のシステムの問題点と改革の方向を探る。	福川裕一 著	学芸出版社	1997/5/10
119	地域共生のまちづくり	住民主体の参加と権利、ライフスタイルの創造、エコロジーの環境管理、居住地ストックの改善と更新プログラム、都市の再生と景観保全、災害復興都市計画論などより人間的な生活空間をめざす実践方法と思想の再構築が、フィールド調査を原点として試みられている。生活空間計画学の現代的展開を紹介。	三村浩史+地域共 生編集委員会編著	学芸出版社	2000/5/20
120	変わる盛り場～私がつくり遊ぶ街～	喧騒や賑わいだけが盛り場ではない心地よさとぬくもりを求めて解体と再編集をはじめた都市の遊び場の未来を探る。	サントリー不易流行 研究所 編著	学芸出版社	1999/11/10

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
121	阪神・淡路大震災被災と住宅・生活復興	インナーシティの木造密集地域を直撃した未曾有の大災害によって奪われた生活から人々はいかに復興したか。被災状況、避難生活、役立った都市ストック、住宅・生活再建動向など5地区における定点観測の継続調査をもとに検証。徹底した現場主義と綿密なデータ分析から復旧・復興プロセスにおける課題を明らかにする。	安藤元夫 著	学芸出版社	2003/8/20
123	協働のデザイン ～パートナーシップを拓く仕組みづくり、人づくり～	協働促進のためのルールづくりや委託と補助、支援センター、公益信託の新しい活用法などの協働をすすめる方策、力量形成に不可欠なNPO評価システムなど仕組みづくりと、市民と自治体をつなぐ協働コーディネーターやNPO起業家、スタッフなど人づくりに向けた理論と実践の書。	世古一穂 著	学芸出版社	2001/8/20
125	大型店とドイツのまちづくり	誘致か、阻止か、誘導か・・・自治体職員、議員、商店主、住民、コンサルタント・・・地域間競争を勝ち抜くための郊外大型店誘致と、一方で中心市街地の衰退。日本と同様のジレンマをめぐって苦闘する人々、せめぎあう自治体、揺れ動く都市計画の運用実態をドイツに追う。	阿部成治 著	学芸出版社	2001/12/10
127	町家型集合住宅～成熟社会の都心居住へ～	都心居住の消失の原因と再生の可能性を丹念に読み解き、地域に根ざした集合住宅への試みを京都から発信する。	巽和夫+町家型集合住宅研究会 編	学芸出版社	2002/6/20
128	世界の野外博物館 ～環境と共生を目指して～	急速に失われてゆく民家や街並を建物とそれらを含む環境全体で保存・活用・再生して屋外に公開している野外博物館。その歴史と意義、ユニークな取組みを30年にわたるフィールド調査をふまえ、多くの事例を紹介しながら解説した。伝統文化を守り自然と共存してゆく環境体験型学習の場としての、屋外博物館の可能性を探る。	杉本尚次 著	学芸出版社	2000/3/25
130	コミュニティガーデン ～市民が進める緑のまちづくり～	子どもたちの笑い声、近隣の住民の井戸端会議、園芸作業をする高齢者の生き生きとした表情・・・自治体が抱える放置遊休空地进行を市民と福祉・環境NPOの手で地域交流・環境創造のステージに変えよう。	川越秀治 著	学芸出版社	2002/6/20
131	場所の力 ～パブリックヒストリーとしての都市景観～	本書は著者自身をはじめとする建築・都市計画の専門家と、歴史家・デザイナーなど様々な人々と協働作業を通じて『場所の力』を顕在化するための理論と実践について著したものである。『美観』『文化財』といった従来の枠組みを超える『生活景』の価値をパブリックヒストリーという概念から説いた意欲的な取組みであり、文化的背景の違いを超えて日本のまちづくりにも大きな示唆を与えるものである。	ドロレス・ハイデン 著 後藤春彦・篠田博見・佐藤敏郎 訳	学芸出版社	2002/3/30
132	エンディングの遺言 ～根源からお金を問うこと～	『老化するお金』『時と共に減価するお金』など現代のお金の常識を破る思想の数々を紹介する。また欧米に広がる地域通貨の実践などをレポートする。	河邑厚徳+グループ現代 著	NHK出版	2002/12/20

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
133	改訂版 都市計画法を読みこなすコツ	街づくりの基本に関わる都市計画法だが、技術系の人にとっては法律実務はなじみが薄く、敬遠しがちだ。しかし、法令にしたがって建築活動を行う以上、避けて通るわけにいかない。実務にも教育にも深い経験を持つ著者が読みこなしテクニックを伝授した。ちょっとしたコツさえつかめば法令を使いこなすことは難しくない。	高木任之 著	学芸出版社	
134	にぎわいを呼ぶイタリアのまちづくり	中心市街地はいかに蘇ったのか…… 歴史的背景と都心コミュニティを守るための様々な施策は結果として街に観光と商業の再生をもたらした。一見反経済的に見える厳しい看板規制や商店の立地規制すら繁栄につながったのはなぜか。どんな建物でも建て放題の日本では街はなぜ衰退してしまうのか。都市計画が果たすべき役割を明らかにする。	宗田好史 著	学芸出版社	2002/5/20
135	地方分権時代のまちづくり条例	地方分権の時代、法令と条例、要綱がまちづくりに果たすべき役割とは何か。まちづくり条例を土地利用調整・環境保全・景観・地区づくりに分類し、その歴史的推移と豊富な実例を踏まえて考察。住民の多様な要求と複雑化した行政課題に応える条例を軸とした総合的なまちづくりのあり方を研究・実務の第一線の執筆陣が示す。	小林重敬 編著	学芸出版社	2003/3/20
136	土地利用計画とまちづくり ～規制・誘導から計画協議へ～	都市計画の課題は、高度経済成長期以降大きな変貌を遂げてきた。本書では都市とその他の土地利用の共存、田園の市街化、市街地の中の農地、既成市街地の民間開発といったテーマの変遷を検証。改革の必要性が指摘される現在、行政による既成・誘導の計画から、市民による計画協議を組み込んだ新しい制度の方向を提案する。	水口俊典 著	学芸出版社	1998/11/20
137	路面電車とまちづくり	道路交通の邪魔者として昭和40年代をピークに次々に廃止されてしまった日本の路面電車。その路面電車が欧米では1978年以来52箇所復活、もしくは新設されている。その落差はあまりにも大きく、わが国は世界の潮流に乗り遅れてきた。しかし、日本でもついに97年から本格的に路面電車の見直しが始まった。のろい、古い、がたがた揺れる、自動車交通の邪魔者、前世紀の遺物といった見方をされていた路面電車がなぜいま復活しようとしているのだろうか。	路面電車と都市の未来を考える会 編著	学芸出版社	2000/6/20
138	新・町並み時代 ～まちづくりへの提案～	町並みということばに込められた意味は大きな広がりを持ち始めてる。町並み保存で培われた住民参加の運動を出発に、伝建制度、近代建築の保存活用、商店街活性化、生涯学習、NPOまで様々な手法と実践を紹介する。	全国町並み保存連盟編著	学芸出版社	2000/11/20

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
139	イギリスに学ぶ 成熟社会のまちづくり	一旦出来上がった都市の諸々の課題を解決し、そこに住む人々の生活の質を高めていく成熟社会のまちづくりが日本でも模索されている。こうした課題を共有し、同時代的に進むイギリス都市計画の現場の動きをリアルに描き出しながら、行政職員や議員、専門家や市民の役割と連携方法、情報公開や地方分権、参加、協議手続などの制度基盤のあるべき姿を考える。	高見沢実 著	学芸出版社	1998/10/10
140	防災と市民ネットワーク ～安全なまちへのソフトウェア～	専門職を生かした大工さん救助隊、消火用水を運ぶコンクリートミキサー車、生活物資を確保するスーパーや生協との協力協定……。阪神大震災を契機に様々な官・民のネットワークが生まれている。ハード面のみならず、真に災害に強い地域社会をつくるための新たなまちづくりのあり方を先進例に探る。	三船康道 著	学芸出版社	1998/12/25
141	界隈が生きるニューヨークのまちづくり ～歴史・生活環境の動態的保全～	人々が生き活きと暮らす魅力的な界隈。それは個々の建物の質ではなく、地区が歴史的に育んできた総体としての価値を継承する保全制度の成果だ。市民・行政・建築家・開発業者らの葛藤と協働の結果、厳しい規制と柔軟な対応を併せ持つシステムを創り上げたニューヨークから場所の文脈に即した都市再生の方向を提示する。	窪田垂矢 著	学芸出版社	2002/2/15
142	石の街並みと地域デザイン ～地域資源の再発見～	日本の風土を形づくる地域デザインとは何かという著者の関心は石垣、石畳等、古来、生活空間に多用されてきた『石』に行き着いた。集落から今日のニュータウンまで風土に育まれてきた石の街並みを日本各地に訪ね、あまりにも身近で気づかれなっていた石を地域の固有性を創出する素材＝地域資源として活かす方途を探る。	三宅正弘 著	学芸出版社	2001/11/30
143	都市・農村の新しい土地利用戦略	線引制度の選択性、市街化調整区域での開発規制緩和条例、土地利用関連自主条例。このドラスティックな方針転換を地方自治体はどう受け止め、利用するべきか。コンパクトな都市と豊かな農村環境の関係を目指し、第一線の実務者、研究者が終結、2004年の方針確定の期限に向けて、広範な検討を重ね纏め上げた計画論、待望の一冊です！	NPO法人 日本都市計画家協会 著	学芸出版社	2003/5/20
144	職住共存の都市再生 ～創造的規制・誘導を目指す京都の試み～	京都の歴史的価値ある集積を宣伝文句にしなが、それを自ら破壊するマンション建設が後を絶たない。危機に瀕するまちを救うために都市計画は何をなすべきか。規制緩和の流れに反し、あえて規制を強化することによって既存のまちをまもりつつ個性豊かな地域を目指す、都市の創造的再生へ向けての第一歩。提言を受けた緊急出版。	青山吉隆 著	学芸出版社	2002/11/30
145	アメリカの住宅地開発 ～ガーデンシティからサズナブルシティへ～	車社会、郊外一戸建住宅偏重はアメリカでも変わってきた。地球と人に優しい住宅地はどうあるべきか。時とともに資産価値が上がり、財産づくりにつながる住宅地や住宅をどうしたら作れるのか。現地調査・文献調査を踏まえアメリカの最先端の事例から学ぶ。	戸谷英世+成瀬大治 著	学芸出版社	2002/2/20

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
146	自転車とまちづくり ～駐輪対策・エコロジー・商店街活性化～	地球環境問題の深刻化、エコロジーブームのなかで、クリーンな乗物として脚光をあびている自転車。しかし、駅前には放置自転車があふれ、その対策現場では自転車抑制の声が根強い。路上放置問題をはじめとする駐輪対策の現状、中心市街地活性化に向けての役割、まちづくりに自転車を活用した国内外の先進事例を多数紹介し、放置抑制と利用促進のジレンマを乗り越え、自転車を活かしたまちづくりの手法を探る。	渡辺地干賀恵 著	学芸出版社	1999/3/25
148	改訂版 イラストレーション都市計画法	都市再生特別地区・都市計画提案制度の概略もこれ一冊で理解。平成15年度法改正にも対応しており、ますます複雑になる都市計画法令を図表やチャートでわかりやすく解説。2項目を追加した増補改訂版。	高木任之 著	学芸出版社	2003/6/10
149	安全と再生の都市づくり ～阪神・淡路大震災を越えて～	突きつけられた課題に専門家が総力をあげて応える62人書き下ろし！ 地域の自発的な力を高める日常のまちづくりこそ災害に強いまちをつくる。それを支える都市計画の考え方、計画・事業制度・計画支援・参加のあり方を提言する。	(社)日本都市計画学会 防災・復興問題研究特別委員会 編著	学芸出版社	1999/2/10
151	だれでもわかる地域通貨入門 ～未来をひらく希望のお金～	地域通貨とは限られた範囲で発行され信用にもとづいて流通するお金のこと。環境・福祉・ボランティアなどの分野で注目。その歴史、世界での事例と実践方法を紹介。	森野栄一 監修 あべよしひろ・泉留維 著	北斗出版	
152	地域通貨を知ろう	お金って何だろう。地域通貨って何だろう。なぜ今注目されるのだろうか。地域通貨の実践とその可能性を探る。	西部 忠	岩波ブックレットNo.576	2003/6/25
153	ユニバーサルデザインハンドブック	世界は今、そして日本は。建築・都市・交通・プロダクト・情報・法律・規制等各国のユニバーサルデザインの実践情報を収録した世界初のハンドブック。	梶本久夫 監修 ウルフガング・ブライザー 原著	丸善	2003/9/10
154	まちづくりロマン	いま、どんなに注目を集めている町や村でも、はじめはごくありふれた、ときには逆境にあえいでいたところもあった。そこでだれかが最初の一步を踏み出したことによって先進地への道を開いた…… だれがどのようにして始めたのか。資金不足・まわりの反発・法の規制など高く厚い壁をどう乗り越えたのか。キーパーソンの想いと哲学に迫る。	亀地宏 著	学芸出版社	2002/6/20
155	なるほど地域通貨ナビ	江戸時代の藩札やヤップ島のストーンマネーなどに触れながら、貨幣の本質を問ひかけ、そして近代社会への懐疑から環境問題にいたる幅広い視点の中で21世紀の地域通貨を位置付ける試みをしている。	丸山真人・森野栄一 編著	北斗出版	2003/1/10

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
156	対話による建築・まち育て ～参加と意味のデザイン～	コミュニティデザインの現場にたちあられる意味を具体的にすくいあげ、研究と実践の橋渡しを行うことに、社会的・学術的意義がある。『意味』、それはホンモノの住民参加によって獲得される、地域・空間・建築そして生き方の質。協働に悩むすべての人へ贈る一冊です。	日本建築学会 意味のデザイン小 委員会 編著	学芸出版社	2003/4/20
157	未来へ続く歴史の町並み	全国52市町村57地区(平成13年3月末現在)が指定を受けている『重要伝統的建造物群保存地区』。そのすべてについて歴史・町並み保存の契機・地区住民の関わり・よもやばなしと網羅。歴史的な町並みを活かしたまちづくりに取組み皆様のバイブル！	全国伝統的建造物 群保存地区協議会 編著		2001/3
158	いちから見直そう！地域資源 ～資源の付加価値を高める地域づくり～	未利用な地域資源をいかに活用するか、それが本書の材料となった調査に与えられた課題であった。地域の記憶を遡れば、未利用な地域資源はかつて活用されていたものばかりである。それが放棄されたのは地域資源が変わったのではなく、社会・経済システムが変わったのだ。いくなれば地域資源を活用するとはかつての社会・経済システムを見直し取り戻すことを抜きに語ることはできないのだ。	三井情報開発株式 会社総合研究所 編著	ぎょうせい	
159	自治体とNPOによる協働実例集	国や地方自治体への直接取材に基づき編纂した自治体とNPOにより実際に協働で行った取り組みを紹介。	国政情報センター		
160	遊学する小布施 ～信州・小布施コンセプト&ガイド～	第一幕 栗と小布施四季の味 第二幕 北斎と小布施ルネッサンス第三幕 町並みと小布施人 第四幕 小布施から世界へエピローグ 北信濃を歩く。	ア・ラ・小布施 編	川辺書林	1997/4/1
161	子どもを犯罪・事故から守る安心マニュアル	子どもを狙った犯罪・事故が増えている現在、どうしたら、私たちの子どもを被害者にさせないですむかという情報が不足している。子どもを被害者にさせないために、お母さん方の経験をもとにつくった、子どもを犯罪・事故から守るマニュアル。	子どもの危険回避 研究所	学習研究所	2001/12/4
162	NPOによるセミフォーマルな犯罪統制 ～ボランティア・コミュニティ・commons～	新しい犯罪社会学の視座から、来るべき時代にふさわしい安全確保の新たな方策を研究したものである。	小宮信夫 著	立花書房	2001/12/15
163	地域イベントとまち開発 ～まち創造時代—その器と心～	今、地方中都市の中心街が危機に瀕している。都市は世界的に産業都市から確実に情報都市化している。情報都市の根底は情報発信である。	飯尾紀彦 著	北土社	1991/2/6
164	『五感』性のある景観創造 ～盛岡市の都市景観行政と地区計画～	盛岡市の景観づくりは、まちづくりの核であり、まちの自然環境の保全や歴史的建造物の保存、まちの環境デザイン、アメニティ市民懇話会、都市景観推進委員会がうまく噛み合ったと考えられる。本著は主として実務者を意識したもので、実践例を多く取り入れたものである。	佐藤 優 著	北土社	1991/1/25

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
165	都市計画教科書	土木工学科はじめ建築系の諸学科、公園・緑地系や都市工学科、社会工学科などの諸学科で共通して利用できる都市計画の教科書。	都市計画教育研究会 編	彰国社	2003/3/10
166	まちづくりとしての地域教育 ～大学と地域の共育実践～	大学を拠点とした地域教育実践研究。地域問題・教育として部落問題や同和教育を扱ったもので、大学で学ぶ学生や小中学校で実践する教員を対象にまとめたもの。	後藤 直 編著	阿吽社	2002/4/30
167	安全・安心まちづくりハンドブック ～防犯まちづくり編～	家や公園、エレベーターなど身近な課題ごとに、まちづくりの視点から防犯にアプローチ！先進事例を多数収録した、これからの安全・安心のための実践的な防犯まちづくり参考書！	安全・安心まちづくり研究会 編	(株)ぎょうせい	2001/12/1
168	安全・安心まちづくりハンドブック ～防犯まちづくり実践手法編～	先進地区での実態調査を通じて防犯に配慮したまちづくりの事例をできるだけ多く記載することに努め、防犯まちづくりの実践手法を示した、安全で安心なまちづくりのためのガイドブック。	安全・安心まちづくり研究会 編	(株)ぎょうせい	2001/5/30
169	都市計画国際用語辞典	この用語辞典は、都市計画のカタカナ用語の定義を知るために、また専門用語を知るために編集を行ったものである。	都市計画国際用語研究会 編	丸善	2003/11/20
170	県境を越えた地域づくり ～三遠南信地域づくりを中心に～	愛知県東部、静岡県西部、長野県南部をあわせてテリトリーとする「三遠南信地域」の形成をめざして模索がつづいている。三県の間県境を越えた地域づくりの事例集。	愛知大学総合郷土研究所 編	岩田書院	1998/3/20
171	住民参加でつくる地域の計画・まちづくり	まちや街並みをつくるには、近代の都市計画や地域計画の技術を取り入れるとともに、日本固有の文化を“地域計画・まちづくり”に活かそうとをすすめるための参考書。	日本まちづくり協会 編	技術書院	2002/4/5
172	交通まちづくりの時代 ～魅力的な公共交通創造と都市再生戦略～	クルマ社会の恩恵を浴してきた日本だが、その弊害も交通渋滞にとどまらず、大気汚染、公共交通の衰退とモビリティ格差、そして中心市街地の空洞化という形で目立ってきた。スプロールが一段と進み、今や郊外の大型店舗の一部も衰退し始めている。まちづくりを市場原理だけに任せてよいのか。そうした問題意識に立って、わが国のみならず欧米諸国の先行事例を通して、魅力的な公共交通の創造を切り口に都市再生の方策を提示している。地方分権が進む中で、自治体やNPO、市民が交通まちづくりを進めるうえで大変有効な一冊。	市川嘉一 著	ぎょうせい	2002/4/25
173	たすけあいの地域づくり ～超高齢化社会を乗り切る知恵と仕組み～	3人1人が老人になる21世紀の日本。たすけられ上手になり安心して暮らすモデルを生協発の地域福祉の実践が教えてくれる。	根本悦子	学陽書房	1997/3/10
174	まちづくり・都市計画なんでも質問室	まちづくりの根幹をなす法制度をめぐる動向と実務上の課題を、バランスよくコンパクトに解き明かす。	柳沢厚＋野口和雄 編著	ぎょうせい	2002/11/25

おもしろまちうちライブラリー 【蔵書一覧】

2023年7月更新

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
175	出前講座がまちをかえる ～21世紀のまちづくり・人づくり～	出前講座が、今日本で話題となっている。全国の生涯学習に関する大会や研修会では必ずといっていいほど出前講座の話題が出る。今後の生涯学習まちづくりのための最も有効な手段。その火付け役となった埼玉県八潮市の事例を紹介。	松澤利行 著	全日本社会教育連 合会	2001/5/10
176	ファシリテーター入門	環境教育を地域にひろげていくために、地域で自立して環境教育のプログラムや場を企画・コーディネートするコーディネーターや参加型学習を促進するファシリテーターの養成を目的とした入門書。	エココミュニケー ションセンター 編集	柘植書房新社	2002/6/15
177	都市のり・デザイン	何を残し、何を創り、何を育てていくのか。経済・資源・エコロジーと結び、地域から取り組む新しい都市デザイン論の試み。共生的・都市活性的仕組みづくり。	鳴海 邦碩(著), 其 他	学芸出版社	2002/5/20
178	市民が主役のまちづくり	市民が主役のまちづくりには市民が主役であること、地域の活性化には市民が育つことが重要である。そのための行政の役割や今後の具体的な方策を述べ、全国各地における生涯学習とまちづくりを探訪する。	福留 強(著)	全日本社会教育連 合会	2002/3/30
181	10代の生き方ヒント① 危険回避・被害防止トレーニング・テキスト	読んで考え、歩いて学ぶ 生活安全教本	小宮信夫(監修) 横矢真理(著)	(株)栄光	2003/12/3
182	まちのマネジメントの現場から	危機に直面した地域のコミュニティや環境が悪化した都市の周辺、衰退する中心市街地などには、必要にせまられて「まちづくり組織」が生まれ退勢を逸回しようとまちの経営(マネジメント)に取り組み始めている。山間の小さな自治体から都市のまちづくり会社まで、季刊まちづくり編集長が訪ね、その成功の秘訣をレポートする。	八甫谷 邦明 著	学芸出版社	2003/9/10
183	総合学習・町づくり大作戦	6万石の城下町西尾の中心部に位置する愛知県西尾小学校。かつては栄えていたこの町で、地域を活かしたふるさと学習を進めたら子どもたちはどんなイメージを持つのか。西尾小学校での実践を報告。	寺本 潔(著), 愛知 県西尾小学校(著)	明治図書出版	2002/1/4
184	まちづくり 人づくり	生涯学習のまち 事例シリーズ 編集協力 九州女子大学生涯学習研究会「卑弥呼」 全国生涯学習まちづくり研究会	福留 強(著)	学文社	1997/4/10
185	まちづくり読本「こんな町に住みたいナ」	この街で何が起ったか?日本17都市、海外2都市まちづくりの現場からのメッセージ。まちづくりのヒントがいっぱい!	延藤安弘	晶文社	2001/1/20
186	地域政策学入門	過去約30年の間、都市地理学の研究をもとに各地の自治体や国の審議会・委員会・研究会などで実践的に行なった研究から、地域政策学としての都市地理学を具現化する。	戸所 隆 著	古今書院	2003/4/25

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
187	まちづくりにはトイレが大事	日本トイレ協会の事務局長として長年活動してきた著者が、住居や生活環境、障害者や高齢者の問題、アジアのトイレ革命などを素材に、トイレの問題を通して快適なまちづくりを考える。	山本耕平 著	北斗出版	1996/10/31
188	「危機管理」の都市計画	地震、戦争、大火によって生活空間が突然激しく破壊された時、再建をめざす災害復興都市計画はどのような考え方やプロセスで策定すればよいのか。平時の都市計画との相違点・類似点を各国の例を挙げて論考。	西山康雄 著	彰国社	2000/12/10
189	ムラに生きる・まちに生きる	東京一極集中という現実の前に、元気を失っているムラ・まちが多い。その一方で、まだまだ元気な「ドッコイ生きているムラとまち」もある。そのなかから、12カ所のムラとまちをレポート。	地域活性化政策研究会 著	ポット出版	1991/11/1
190	都市観光でまちづくり	1999年7月に発足した「都市観光を創る会」の3年間の活動成果を収録。都市観光の時代の訪れや国内外の都市の魅力の解剖、都市観光を具体的にすすめるための方策、各地域に進んでいる都市観光の取り組み事例を紹介。	都市観光でまちづくり編集委員会編	学芸出版社	2003/10/10
191	転換期の地域づくり	自治体の財政危機、産業廃棄物問題、地域産業の空洞化、農業の衰退、福祉の切り捨てなど、山積する問題にどう応えるか。維持可能な発展の地域づくりをめざして、地域の未来を展望する。	中嶋 信(編集)、橋本 了一(編集)	ナカニシヤ出版	2000/3/10
192	全国自治体まちづくり先端情報2000	きめ細かなアンケート調査にもとづき、都道府県及び市町村におけるまちづくりに関するあらゆる情報を収録。高齢化社会対策、福祉、環境、行政改革、国際化、情報化、広域行政等、各分野の先端事例を紹介する。	都市経営総合研究所(編集)	中央法規出版	1999/10/30
193	まちづくり「タイガース」に聞け	元日刊スポーツ・トラ番記者が、豊富な経験と人脈を生かし、阪神タイガースの強さを徹底分析! 星野監督の人づくり、組織づくりの秘密を探り、まちづくりに生かす新発想。この本を読んで元気をもらおう!	井坂よしゆき	燃焼社	2003/8/20
194	緑のまちづくりシリーズ 道と小川のビオトープづくり	小川のコンクリートを剥がし、直線的な流れを曲線にもどし、水辺には緑があふれる。こうしたビオトープづくりの成果が結実した指導書。写真や図による豊富な例示と適確な記述で、実用的な科学技術による生態系保護の方法を述べる。	バイエルン州内務省建設局(編集)、その他 大型本	集文社	1993/8/18
195	まちづくり実践講座	商店街も下町もこれで元気になる。地域の力を引きだす“必生”の提案。	高田 昇 著	学芸出版社	1996/6/20
196	地方自治体の公共意思決定	公正、透明な公共意思の決定は時代の要請である。行政のあり方のみならず、議会・市民・関連団体との関わりを自治体の組織文化の変革と共に如何に再構築するかを考察。	高村 義晴 著	日本経済評論社	2003/6/1

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
197	「あそび」をとり入れた地域づくり	「あそびという行為」が育む地域づくりの芽／地域の資源と「あそびごころ」の融和が作り出す新しい地域像／「あそび感覚」から生まれるボランティアな地域づくり／歴史・文化を「あそび」という形で地域に活かす方策。	総合研究開発機構 地方シンクタンク協 議会		1999/5/31
198	日本の風景を殺したのはだれだ？	醜悪、混沌、無秩序…日本は、いつのまに、こんなに醜い国になってしまったのか。美しい日本の景観復活、経済再生に向けて、あらゆる角度から問題の本質に迫る。成立前の景観3法(案)など貴重な資料も収録。	船瀬 俊介	彩流社	2004/2/25
199	成熟のための都市再生	美しく成熟する都市と田園回復への意志を持ち、デザイン・計画・政策を変革する動きを提唱。街づくりの政策を、福祉の裏付けを持った人間的な政策に転化すると同時に、文化の香りがする政策に転換させる方法を探る。	蓑原敬 著	学芸出版社	2003/5/30
200	季刊まちづくり	1～36 タイムリーな話題を多角的に紹介する特集、地域づくりを丸ごと紹介する探訪、まちづくりのスキルに迫る連載、コミュニケーションをはかる読者参加、読みやすさと資料性を兼ね備えた誌面構成で、まちづくりを多角的に追及する唯一の総合誌。		クッド研究所 学芸出版社	
201	都市アメニティの経済学	歴史的文化遺産に金をつぎ込んで、それで合意は得られるのか。お金を測れない文化的・社会的価値を計量化することで、公共投資や保全のための規制の是非を論じる共通の土俵を創り出すための手法を述べる。	青山 吉隆 著	学芸出版社	2003/10/30
202	森が都市を変える	森を破壊する文明から、森を核とする文明へ…。「森」から都市と自然を再生する試みを、万博記念公園、大阪府民の森、新梅田シティを例に紹介する。生物多様性の再建、水源保護など、さまざまな条件下での取り組みを解説。	吉村元男 著	学芸出版社	2004/2/25
203	コーポラティブハウス	様々な人々が集まって共同住宅を建てるコーポラティブハウスは、ここ数年急速に普及しつつある。実際に建てる際の交渉や成功するための秘訣などを具体的に解説。企画者のための実例も紹介した手引きとして役立つ一冊。	高田 昇 著	学芸出版社	2003/3/20
204	都市再生のための防災まちづくり	密集市街地におけるまちづくりに関わる行政担当者やコンサルタントなどに向けて書かれたハンドブック。密集市街地の現場におけるいろいろな取り組みに必要な、基本的考え方から具体的な実務テクニックまでをとりまとめる。	防災都市づくり研 究会 編	ぎょうせい	2003/2/12
205	地域主権の市町村合併 —大都市化・分都市化の国土戦略—	時代の変化とこれからの地域づくりを踏まえ、「大都市化・分都市化」の理念による空間革命と市町村合併の関係を論じつつ、空間の科学・空間的枠組みから市町村合併の今日的意義について考える。	戸所隆	古今書院	2004/1/15

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
206	「元気なまちづくり」のすすめ	地域の人々がまちを活性化させ、維持させる「元気なまちづくり」の基本となる「3つの原則と9つのポイント」の説明と、全国から10のまちづくり事例を詳しく解説。地方都市の市街地活性化に役立つ一冊。	元気なまちづくり研究会（編集）、国土交通省都市地域整備局都市総合事業推進室	ぎょうせい	2004/3/20
208	一郷一学GUIDBOOK 活動事例集	群馬県内各地域の「一郷一学」活動事例活動に関する情報交換や仲間づくりに活用、参考になります。	群馬県		2004/3
209	ほのぼの群馬 群馬観光総合要覧	2000年版 2003年版 群馬県の概要（自然・文化・スポーツ・観光・物産・祭り・宿泊・交通 等）	群馬県観光協会		2000/2/29 2003/3/31
210	安全・安心なまちづくりへの政策提言 —生活犯罪・迷惑行為・暴力からまちを守る—	安全・安心なまちづくりのための自治体の施策、自治体と住民、警察等との連携・役割分担、条例制定の必要性などを検討し、都市自治体の安全・安心なまちづくりの参考となる提案を行うことを目的に行った調査研究の報告書。	日本都市センター		2004/3
211	都市計画ハンドブック 2003	都市計画ハンドブックの2003版	都市計画協会		2004/4/20
212	自立型地域コミュニティへの道	地域間交流による地域の活性化を促進し、多様な地域資源を生かした地域づくりの実施手法、人的支援・組織支援のあり方、市民と行政との連携などについて、豊富な事例の紹介とともにまとめる。	地域コミュニティづくり研究会（著）、国土交通省総合政策局事業総括調整官室	ぎょうせい	2004/1/1
213	環境共生社会学	文明の発展と21世紀の課題、アジア大都市定住環境の様相、環境共生都市の条件等、現代社会が抱える課題を総括的に内包する枠組みを構築し21世紀を見通す社会開発、地域開発の基幹概念として「環境共生社会学」を提起する。	東洋大学国際共生社会研究センター編	朝倉書店	Feb-04
214	緑の水脈	森が水を生み、緑と人を育てる。群馬を水源とする利根川は大地と人の暮らしを支える。季節ごとの美しい風景をとらえた写真集。群馬県の温泉地・公共の湯・湧水案内付き。	新井 幸人	小学館	2004/7/10
215	市街地縮小時代のまちづくり	都市政策答申である「都市再生ビジョン」を中心に、ベースとなった最新の全国都市のデータや座談会を収録。今後の都市政策の企画立案、まちづくりにかかわるすべての人々の参考となるようにまとめられた1冊。	都市再生ビジョン研究会（編集）、松原青美	ぎょうせい	2004/7/30
216	逆都市化時代	膨張から安定への変化が日本の都市にも訪れている。それが都市の停滞や沈滞につながらず、都市における生活の質向上を図る好機とするにはどうすればよいかを考察する。環境共生都市への処方箋。『地域開発』等掲載に加筆。	大西 隆 著	学芸出版社	2004/6/30
217	実践・地区まちづくり	「地区まちづくり」を理論的な面も踏まえ、実際に地区まちづくりの計画の段階から具体的に地区計画への展開に至るまでを論じる。また、住民参加や合意形成についても実際に行われたものを具体的に取り上げる。	上山 肇（著）	信山社サイテック	2004/5/25

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
218	LRTが京都を救う	クルマ公害で汚染され、雑然とし、魅力を次第に失っている京都を、このまま衰退するにまかせておいてよいのだろうか？ 旧来の路面電車を最新の技術を使って発展させた、ひとと環境にやさしい「LRT」導入のすすめ。	土居 靖範 著	つむぎ出版	2004/1/10
220	「代官山」ステキな街づくり進行中	ファッションの情報発信基地として、あるいは雑貨ブームの中心地などとして取り上げられるようになった代官山。なぜ「代官山」がステキな街になったのか。代官山における街づくりのすべてを将来の展望も含めて解説する。	岩橋 謹次 著	織研新聞社	2002/1/10
221	女性の仕事おこし、まちづくり	まちを元気づける新たな力！地域のつながりを再生させるコミュニティ・ビジネスから自分らしい居場所づくり・生活づくりのネットワークまで、女性たちの25の実践をヴィヴィッドに紹介。また、行政の女性の視点を生かすまちづくり・起業支援施策の現状とこれからの展望する。	上野 勝代 著	学芸出版社	2000/4/1
222	子供の眼でまちづくり	新しい教科としての「総合」を、「子供たちがユニークな発想で、学習課題を探しに出かける知的探検」ととらえ、学校周辺の身近な「まち」を、豊かな学習の場に変える具体的なアイデアや実践を紹介する。	寺本 潔	KTC中央出版	1999/7/30
223	はばまれた青春	封建時代からの陋習を断ちきり、新生の一步を踏みだした石坂むらと市瀬むら。子供達、若者達と拘わりながら、むらの困難を一步一步乗り越えた、まちづくりの奮闘記。	田中 勇 著	日本図書刊行会	1997/9/20
224	町衆企業とコミュニティ	都心に立地する企業が、地域のコミュニティ活動にどう寄与しているのか。京都型の都心再生モデルを追求し、一つのステップとして提起する。	三村 浩史 著	高菅出版	2001/12/10
225	地域づくりとスポーツの社会学	スポーツが展開する「場」を社会的な世界に広げ、積極的にスポーツをとりまく環境へ目を向けていくことで、スポーツと地域変動というテーマに迫る。地域づくりの現場で悩んでいる市町村役場の方々に読んでもらいたい一冊。	松村 和則 著	道和書院	1999/9/10
226	日本の都市景観100選	「都市景観大賞」を受賞した全国の100地区を現地取材。500点の写真に解説・資料・地図を加え、日本の代表的な美しい街並みを完全網羅。	「都市景観の日」 実行委員会（編集）、 都市づくりパブリック デザインセンター	建築資料研究社	2001/10/4
227	産業遺産とまちづくり	炭坑、採石場、赤煉瓦の倉庫、連絡船、鋸屋根の工場。産業構造の転換とともに、時代に取り残され、壊されゆく数々の産業遺産。そこには背負ってきた歴史があり、当時隆盛を極めた資本と技術の精髓と、人々の手仕事の痕跡がある。その美しさを動態保存し、地域の資源としてまちづくりや観光に活かしている各地の試みを訪ねる。	矢作弘 著 末松誠 写真	学芸出版社	2004/8/30

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
228	割れ窓理論による犯罪防止	「割れ窓理論」は米国ニューヨーク市の治安回復において大きな役割を果たしたと言われている。安全・安心なまちづくり、街頭犯罪の抑止、子供の安全、治安再生のための必読本。	G.L.ケリング(著), C.M.コールズ(著), 小宮 信夫(翻訳)	文化書房博文社	2004/3/20
229	グラウンドスケープ宣言	全国のプロジェクトの中心で活躍する土木建設・建築・都市計画の第一人者たちが、従来からの細分化された専門の壁を乗り越える「グラウンドスケープデザイン」を提言する。	内藤 廣 著	丸善	2004/5/31
231	ファンドが拓くまちづくり 公益信託「世田谷まちづくりファンド」 1987-1997	この冊子は、ファンドを通じた住民参加の街づくり活動の実態を当事者の声を借りながらそのまま表現したものです。	「ファンドが拓くまちづくり」編集委員会 著	(財)世田谷区都市整備 局	2000/3
232	市民のための まちづくりガイド	まちづくりの考え方、仕組みから行政や応援団との付き合い方までしっかり教えます。	佐谷 和江(著), その他	学芸出版社	2002/5/20
233	新たな観光まちづくりの挑戦	多様な観点から重要性が認識される観光振興。国土交通省と各界の専門家が、地域に根ざし、地域の個性を十分に活用した「観光まちづくり」を解き明かす。自治体の事例も紹介した、観光関係者すべてにお奨めの一冊。	観光まちづくり研究会 (編集)	ぎょうせい	2002/7/30
234	地域づくり 創造への歩み【増補版】	「地域づくり」とは時代に相応しい新しい価値を地域からつくり出すこと。21世紀の国土のグランドデザインにおいて「多自然居住」を提唱する著者が、地域づくりの真髄と地域リーダー達との出会いを語る。2000年刊の増補。	宮口 としゆ(著)	古今書院	2002/9/25
235	スマートグロース アメリカのサステナブルな都市圏政策	都道府県マスタープランの導入、線引きの見直し、そして土地利用調整関連制度のさらなる改革に向けて、コミュニティから都市圏まで、多様な主体の多次元の公共性を調整し実現する政策形成(デザイン)システムのあり方をスプロール大国アメリカに探る。	小泉秀樹 西浦定継	学芸出版社	2003/1/30
236	都市再生の法と経済学	都市住宅問題に関する多用性、利害の複雑性、公共の関与に関する模範等、従来、分析の視角や方法において統一的に処理することが困難であると理解されてきた現象にできるだけ明確で、具体的かつ体系性を具備した評価基準を設定し、そのような基準の有効性を検討実証しようとするものである。	福井秀夫 著	信山社	2001/9/20
237	官の詭弁学 誰が規制を変えたくないのか	なぜ同じ店で美容師と理容師が働いてはだめなのか、車の性能は向上しているのにどうして車検は2年に一度なのか、身の回りになお残る経済規制をめぐって官僚との激論を情報公開、規制問題の根深さが浮き彫りになる本です。	福井秀夫 著	日本経済新聞社	2004/8/25
238	メイド・イン・ジャパンからウエルカム・ツー・ ジャパンへ	構造改革は「観光立国」から! 人集めのプロフェッショナル、元東京ディズニーランドの総合プロデューサーが、観光大国日本への実践的アプローチを大胆に提言する。	堀 貞一郎	プレジデント社	2002/11/30

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
239	子どもはおとなの育ての親	本書は、毎日新聞紙上に「新・教育の森」として2001/6/2～10/1、2002/3/4～7/8に掲載されたものです。	天野秀昭 著	有限会社ゆじょんと	2003/10/26
240	まちづくり教科書第3巻 参加による公共施設のデザイン	地域を活性化させ、まちづくりを成功させるため、日本建築学会が総力を挙げて纏めたまちづくりのための教科書。まちづくりのための具体的なノウハウをテーマごとに具体的に解説。	日本建築学会 編	丸善	2004/3/30
241	設立50周年記念誌	伊香保温泉旅館協同組合の50年史	伊香保温泉旅館協同組合		2002/12
242	狭あい道路とまちづくり	狭あい道路整備のための決定版的実務資料集。『研究会』の長年の研鑽の集大成。理論的・体系的に課題を整理。歴史的経緯と課題、全国の実態と先進自治体の取組みの解説、詳細データ。	狭あい道路とまちづくり研究会 代表 高見澤邦郎 小林重敬	地域科学研究会	2001/2/23
243	狭あい道路と生活道路の整備方策	「狭あい道路問題を嘆くだけでなく、これを解くことが実は市街地整備推進の鍵ではないか」こうした考えに基づき、実際にこの問題を担当してきた行政職員が中心となって、新しい「まちのつくり方」を提案する。	井上 隆	地域科学研究会	2004/11/15
244	都市の防犯	いまや都市の防犯は日本の大きな課題である。本書を手にした読者は防犯の新しい考え方を総合的につかむことができる、警察関係者はもちろん、建築や都市計画を担当する行政やコンサルタント、またこれから防犯を学ぼうとする学生にも必携の本である。	小出治 監 樋村恭一 編	北大路書房	2003/9/10
245	上州風	1～28 群馬の歴史、風土、自然芸術から暮らしまで、地域に根ざした多様な文化的資源を見つめ直し、その豊かさ、奥深さを新鮮な切り口で紹介する文化誌。		上毛新聞社	
246	住みよい都市 全国主要都市の比較調査	全国の主要な54都市を、自然・住居・経済・公共基盤・文化教育・健康安全・都市イメージなどの項目により「都市の良さ」を指標で表現した調査報告。	北九州都市協会 編	共同通信社	2001/3/1
247	条例による総合的まちづくり	近年の法改正にともない、地方自治体による条例の多様な運用が可能となった。自主条例・委任条例の連携・一体化で、新たな条例づくりの手法を紹介、事例に即し詳細に議論、提案する。	小林重孝 編著	学芸出版社	2004/3/20
248	景観法を活かす	景観法には、あらかじめ設定された運用マニュアルは存在しない。 地方自治体独自の取組みを促す、きわめて柔軟かつ多様な手法を取り入れた法律である。本書では、制定の背景と経緯・趣旨等を解説、次いで地域特性に応じた景観法の活用枠組みを示し、併せて8事例モデルから複合的な運用方法を紹介する。	景観まちづくり研究会 編著	学芸出版社	2005/6/20

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
249	景観法と景観まちづくり	景観法の成立をうけて各地で景観まちづくりへの関心が高まっているが、景観法を実際の景観まちづくりに結びつけるには課題も多い。本書は、その課題を特に自治体の役割を中心に整理するとともに、課題解決の参考となる景観条例などの先行事例を都市景観、農村景観、町並み保全、市民との関わりなどのテーマごとに紹介する。	(社)日本建築学会編	学芸出版社	2005/8/20
251	市民自治の可能性 NPOと行政我孫子市の試み	「市民との協働」とはいったい何なのか。どうして「意志を持って」合併を見送ったのか。「日本一汚れた沼」の再生、「オオバンあびこ市民債」、いくつのもユニークな政策を進める市長が自ら明らかにする、まちづくりの実録書。	福嶋浩彦	ぎょうせい	
252	まちづくりの新潮流 コンパクトシティ／ニューアーバニズム／ アーバンビレッジ	さびれきった中心市街地、高齢化が進む郊外団地、疲弊する地方財政、荒廃する景観。わが国でも顕著になっている問題に遭遇している欧米各国の取り組みを、3年間の現地調査をもとに書き下ろした、まちづくりの参考書。	松永安光	彰国社	
253	犯罪は「この場所」で起こる	神戸酒鬼薔薇事件('97)、大阪池田小事件('01)、長崎男児誘拐殺人事件('03)、奈良女児誘拐殺人事件('04)・・・これらの現場には、共通するある「条件」がそろっていた！原因を追究することで犯罪を減らそうとするのではなく、「物的環境」の設計や「人的環境」の改善で犯罪を予防する、新しい犯罪学を、豊富な写真と具体例で提示。	小宮信夫	光文社	2005/12/25
255	まちづくり協議会とまちづくり提案	まちづくり協議会が、地区の意思をまとめ、行政に提案するにはどうすればよいか。地区の範囲はどうすべきか。意思決定の正当性はどうか。小さな協議会が叢生し、ハードな市街地整備から景観づくりまで、80余ものまちづくり提案を繰り返した神戸・新長田駅北地区東部の実践から、生きているシステムとしての協議会を考える。	久保光弘	学芸出版社	2005/8/30
258	町家再生の相違と工夫 事例に見る改修の作法と手順	近年では、町家が住宅として再生されたり、レストランなどに用途転用された事例もあるが、必ずしも適切に改修されたやり方とは言えない物も多い。町家の歴史を見据え、その本質を理解した改修方法が求められる。本書では、京町家作事組の6年間の実践にて培われた改修指針を示し、具体的な事例を通して、その筋道を示す。	京町家作事組 編著	学芸出版社	2005/6/20
259	都市美 都市景観施策の源流とその展開	景観基本法の制定、歴史的な町並みや建築物への関心の高まりを背景に、景観施策が大きく動こうとしている。我々は、都市人は何か、美の施策はどうあるべきかを再度新市に捉え直すべきではないか。欧米各国と日本の都市美理念の源流に遡り、美の公共性がいかに確立してきたかを振り返るとともに、これからのあり方を探る。	西村幸夫 編著	学芸出版社	2005/5/30

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
260	日本人はどのように国土をつくったか	地文学とは、土地の文つまり土地の特徴的な構造を読み、土地を解釈する学問である。国土の造形は自然現象だけではなく、永年の人間の営みによっても培われた、庶民が信仰を支えに自然と調和したしなやかな国づくりに取り組んだ、古代から近世までの国土開発の特徴を読み解き、現代の国づくりの方針を問う意欲作。	上田篤・中村良夫・樋口忠彦	学芸出版社	2005/4/10
263	小説・区画整理	季刊誌『まちづくり』に連載されてきた、区画整理組合の先達11名にまつわる事実を基にした物語。「基盤整備だけでなく、その先の街づくりこそ大切なのだ」と先を見つめる姿から、街に対する深い愛着が伝わる。		(財)区画整理促進機構	2004/1/10
264	ぐんまの土木遺産 第2集	第2集 県土発展の礎として築かれた土木構造物を訪ねて	(財)群馬県建設技術センター		2005/6
265	増補版 群馬の地名をたずねて	地名は姓名とともに私たちの人生と一体のものである。人は時間(歴史)と空間(場所)の中で生きている。その場所を他と区別するために付けられた名前が地名である。その場所になぜそのような地名が付いたのか、そのワケを説明するのが地名学である。本書では、県内の興味ある地名の起源・語源や意味を科学的に考察し、分かりやすく解説した。	澤口宏監修 群馬地名研究会 編	上毛新聞社	2004/9/10
266	わたしたちの地名 群馬県の地名のおいたちを探る	平成の大合併を機に、改めてその価値を見直してみることは重要なことだと思います。またそのことを次の世代を担う子どもたちに伝えていくことは、大切な事であり、私たちの責務であると思います。ふるさと群馬の地名におもしろさを感じ、ふるさとを愛する一助になる本です。	近藤義雄監修	社団法人群馬県子ども会育成団体連絡協議会	2005/3/31
267	都市と犯罪	通り魔殺人事件、金融機関強盗事件等々、安全といわれる輪が国でも、犯罪の多様化・悪質化が顕著となってきた。都市空間の変貌によって生み出される「都市の死角」の増大、それに伴う都市犯罪の急増・犯罪の脅威のない、安全な街づくりをどう進めたらよいか。都市計画・建築。情報科学等の研究者と防犯問題の専門家が提示する都市防犯の処方せん。	警視庁防犯課監修 伊藤滋編	東洋経済新報社	1982/10/12
268	市民参加の都市計画	官僚主導を排し市民の合意に適った都市計画を提唱する。	伊藤滋	早稲田大学出版部	1997/2/10
269	都市づくり条例の諸問題	都市づくり条例の制定をめぐり、条例制定権の限界、負担金の性格、都市計画法・建築基準法との関係等の問題点を中心に、条例化の許容範囲を法学的観点から検討するため(株)不動産協会が「都市づくり条例研究会」に委嘱調査した成果をまとめたもの。	成田頼明編著	第一法規出版(株)	1992/1/20
270	関東の道 『関東の道』発刊20周年記念 (1985～2004)	関東地方1都8県4市と関東地方整備局を構成機関とした「関東地方道路広報連絡会議」が昭和60年度から発行している道路広報誌『関東の道』。創刊20周年を迎えた創刊号からの合本の記念号。		(社)関東建設弘済会	2005/6

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
271	新たな生活交通の創造 生活者の視点に立った交通ビジョン	群馬県が作成した「生活者の視点に立った交通ビジョン」。車先進県として人と車と公共交通機関の今後のあり方を「人にやさしい交通」という新しい視点で検討。20名の有識者のインタビューや県民のアンケート調査等も掲載。	群馬県	群馬県	
272	精解 富岡日記	官営工場の特徴を最も強く出している時期の和田英自らの体験記。富岡製糸場の工女の労働実態やそれに伴う生活実態、さらには明治初期の女子労働の問題を解明するための資料、文化的資料として活用できる。	和田英 著 今井幹夫 編	群馬県文化事業振興会	1999/10/25
273	「まち・ひと・まちづくり」 一女性からのメッセージ	多方面、各地でご活躍の助成からの示唆に富む内容です。		(社)街づくり区画整理協会	2005/8
274	日本再編計画	行財政改革なき増税は国を滅ぼす！故松下幸之助が提案したアイデア「無税国家」。このアイデアをひとつのベースに、これからの日本の目指す国家像を検討。そして大胆な国家の再編によって生み出した資金を基金として積み立てる。『日本再編計画』は、いままでの国家運営にはない発想を編み出し、提言をまとめたもの。	齋藤精一郎責任監修	PHP研究所	1996/11/3
275	みちくさ随想録	行政、教育、社会、醒めた目で虚構を衝く！わが国の行政や教育は、いま大きな変革を求められています。霞ヶ関から国立大学に転じた稲葉さんは、体験に基づいてその矛盾を鋭く指摘するとともに、興味深い話題も提供しています。	稲葉清毅	大空社	1999/2/26
276	東京都市計画物語	なぜ東京はこうようになったか。現在の姿から過去のプランやプロジェクトを検証し、「東京」の歴史的形成過程を明らかにする。	越澤明	ちくま学芸文庫	2001/3/7
277	終始吾に道あり	自叙伝(議員32年の回想)	福田作三	あさを社	1999/3/25
278	群馬学の確立にむけて	平成16年度に3回開催した群馬学連続シンポジウムの記録。	群馬県立女子大学	上毛新聞社	2005/3/19
279	東貝沢町誕生物語	東貝沢土地区画整理事業の記念誌	東貝沢土地区画整理事業記録作成委員会		1992/12/15
280	赤煉瓦物語	この本は明治5年に官営模範工場として開設された富岡製糸場が、どのような考えのもとに計画され、また実際にどのような製糸場であったのかを、豊富な写真と分かりやすい文章でつづったものです。	赤レンガ物語をつくる会編	あさを社	1999/3/1
281	都市づくり100年 前橋アラカルト	月2回発行する「広報まえばし」の昭和62年8月1日号から平成3年10月15日号まで4年3カ月、計102回の連載をまとめた一冊。 前橋市の施設や制度、前橋の歴史、ゆかりの人々などが分かりやすく紹介された“まえばし”を知る上で格好の入門書。	市川克人著	前橋市観光協会	1992/12/18

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
282	道路事業の評価 評価手法の解説	「道路事業の客観的評価指標(案)」を適切に運用するため、評価指標の基本的な考え方及び具体的な評価の方法についてとりまとめたもの。	事業評価研究会	ぎょうせい	1998/5/25
283	忙しさ十倍楽しさ百倍	「人やモノが動くまち」にしたい。市民にできるだけ高い品質のサービスをできるだけ多く提供するのが市役所の使命と行動してきた、太田市長3年間の「視点」「随想」「講演」。	清水聖義	ぐんま2001事務局	1998/12
284	語りはじめた千歳っ子たち 千歳地区復興の10年	1200世帯が暮らしていた神戸市須磨区千歳地区が阪神・淡路大震災とその直後の火災によって9割以上が焼失。以来10年、その教訓を活かした新たなまちを再建すべく、千歳地区連合まちづくり協議会を結成し、復興まちづくりに取り組んできた。教訓を活かし、継承されていくことを考え発行した冊子。		千歳地区連合自治会	2005/4/24
285	生涯青春 本音で語れば	前前橋市長の政治生活34年史。	萩原弥惣治	萩原弥惣治政経会	2002/1/8
286	従来型観光地の再生に向けて ～地域主体の「住んでよし、訪れてよし」の 観光地づくり～	国土交通省関東地方整備局・関東運輸局で実施した「従来型観光地での地域の魅力の再発見または創出と、それを活かした集客力回復とまちの再構築に関する調査」の調査報告書。		編集発行 国土交通省関東地方整備局・関東運輸局	2005/3
287	策あり！都市再生	「都市再生」は、これからの日本を左右する、古くて新しいテーマです。このテーマに対して、日本を代表する建設会社設計部・大手建築設計事務所から各1名ずつ選抜された40歳前後の第一線設計者14名が自由に議論を重ね、1冊の提言集としてまとめました。建築のプロはもちろん、都市政策・都市問題に関心のある方にはお薦めの1冊です。	馬場璋造＋建築線 楽研究会著	日経BP社	2002/9/23
288	防犯セキュリティガイド	最新の防犯セキュリティの技術やトレンドを、犯罪事情や対策事例を交えて詳解。建物の設計者や、企業総務部の安全管理担当者などをはじめ、建物の防犯セキュリティに関心のあるすべての方々にお読みいただきたい一冊です。	日経アーキテクチュ ア編	日経BP社	2004/3/1
289	建築がまちを変える	建築界をリードしてきた大手建築設計事務所や大手建設会社で経営面にも携わるようになったプロフェッショナルたちは、いま、どのような思いを込めて建築に、まちや都市に、そして社会に関わろうとしているのでしょうか。まち並みや景観に関心をもつ専門家はもちろん、市民としてまちづくりに関わろうとしている方々を触発するに違いないアイデアが盛り込まれた提言・論考集です。	日経アーキテクチュ ア編	日経BP社	2005/3/14
290	Q&Aでわかる住宅技術の新常識40	戸建て住宅の設計・施工時に気を付けておきたい技術面のポイントを「快適性」「安全性」などの項目別に整理して、Q&A形式で照会。豊富なイラストや図表を駆使し、より見やすくわかりやすく解説します。住宅・建築業界で話題となっているキーワード解説や新たなQ&Aを書き下ろしコラムも充実。住宅建設業界の実務者、建築関係を選考する学生、家づくりにこだわりのある方などに必携の一冊です。	建築技術支援協会 著	日経BP社	2005/2/14

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
291	door vol.1 地震に強い家	阪神淡路大震災、新潟中越地震を徹底検証し、地震による建物被害のメカニズムから教訓までを豊富な図解を交えてわかりやすく解説。「耐震」「制震」「免震」の違いや長所・短所、制震と免震の最新テクノロジー、住宅の耐震性を高めるポイントなど地震に強い家づくりのノウハウを満載。戸建住宅の新築、リフォーム予定の方から高層マンション居住者まで、必読の一冊です。	日経アーキテクチュア編	日経BP社	2005/10/21
292	door vol.2 ねらわれない防犯住宅	ピッキングなど巧妙化する住宅犯罪に対し、読者・元泥棒などから直接取材し、泥棒が狙う進入経路から実際の手口までを徹底分析。これを手がかりに防犯性能を高めるポイントを豊富な図解を交えてわかりやすく解説します。最新技術を駆使した防犯住宅から、1,000円でできる防犯対策まで、防犯の最新事情やノウハウを満載。自分の住宅を自分で守る時代の必読書です。	日経アーキテクチュア編	日経BP社	2005/10/21
293	建築家が選んだ名建築ガイド	安藤忠夫が選んだ大阪の10選、藤森照る信が選んだ東京の10選、山本理顕が選んだ横浜の10選、全国60人のプロが307作品を厳選。	日経アーキテクチュア編	日経BP社	2005/10/4
294	地域協働による地域再生 地域活性化ガイドブック	個性豊かな地域づくりに取り組んでいる先駆的、特徴的な8つの事例を選定し、概要を紹介。	(財)地域活性化センター	(財)地域活性化センター	2005/2/1
295	Welcome to gunma 地元おすすめ観光 ルート50選	群馬県では、「ウェルカムトゥぐんま推進委員会」を中心に「おもてなしの心」を持ってお迎えする活動を展開しており、本書は地元おすすめ「地域の宝」を結んだ手づくりの観光ルートを紹介するもので、おすすめ観光ルート全116コースのうち、50コースが掲載されています。	群馬県観光物産課		2006/3
296	都市計画業務における住民参加型業務の 手引き	近年、わが国における都市計画・まちづくりは、従来の行政主導型から住民参加型のまちづくりへと移行している。このことに伴い、住民参加に係わる業務が生じているが、その業務に係る報酬が大半の場合、計上されていない、または、業務量に見合っていないのが現状である。そこで、住民参加業務を主な業務として位置づけて取り組んでいくために、住民参加業務に係る必要性と課題を明確にし、標準的な報酬基準の考え方を提案しています。	(社)都市計画コンサルタント協会 (財)都市計画協会		2006/3
297	既成市街地におけるまちづくり事業化計画 策定の手引き	都市計画マスタープラン等で位置づけられた地区整備の基本的方向を検討して、具体的な事業調査に橋渡しをするための「まちづくり事業化計画」の策定方法を提示するとともに、それらの各ステップにおける市民参加の方法も提示するものです。	(社)都市計画コンサルタント協会		2006/3
298	都市のシステムと経営	都市を巡る多方面の社会システムの転換期の現状を、都市の行政システムや法システム、計画システム等の側面から明らかにし、構造変化の様態と今後の方向性について考察する。	西村幸夫	岩波書店	2005/5/27

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
299	中心市街地活性化三法改正とまちづくり	都市計画や商業立地政策の大転換を起こすと言われる中心市街地活性化三法の改正。改正の狙いと課題を国交省・経産省はじめ様々な立場から論じ、都市圏構造の再構築とまちづくり組織の在り方について多数の事例により詳述する。	矢作弘・瀬田史彦	学芸出版社	2006/9/10
300	中心市街地の再生 メインストリートプログラム	中心市街地の歴史的建築の保全・活用と経済活性化を組み合わせ、全米1900地区で実績を上げているメインストリートプログラム。地元主体で組織をつくり、中心市街地をマネジメントする、その理念や運用手法は、日本の中心市街地再生に欠落しているものを明らかにし、真の再生に向けて重要な示唆、ノウハウを教えてくれる。	安達正範・鈴木俊治・中野みどり	学芸出版社	2006/11/10
301	バスでまちづくり 都市交通の再生をめざして	当たり前すぎて人気がないバス。しかしその能力は意外と高く、これを新しい交通まちづくりに活かさない手はない。基幹的な大量輸送から個別対応のダイヤモンドバスまで、環境、福祉、都市開発などにおける役割、そしてネックとなっているバス停や経営問題など、あらゆる角度からバスとは何かを見直し、その可能性を提示する。	中村文彦	学芸出版社	2006/10/30
302	コンパクトシティ 青森市の挑戦	地方都市の中心市街地、とりわけ商店街が疲弊している。まちづくりへの有力な取り組み手法のひとつである「コンパクトシティ」の基本的な考え方を解説し、コンパクトシティ形成に向けた青森市の取り組みを紹介する。	山本恭逸	ぎょうせい	2006/11/20
303	官のシステム	政策過程における「政(まつりごと)的側面」を内包する行政活動がどのような組織と人事の仕組みの中で行われているかを明らかにするとともに、変わらなさを要因をさぐり、改革への新たな展望を示す一冊。	大森彌	行政学叢書	2006/12/22
304	暮らしに根ざした心地良いまち	資源循環型・持続型の社会経済システムの構築について取り組むプロジェクトによるシンポジウムの講演録をまとめる。地方自治体と住民との協働、NPOと地域の連携による地域再生などについて提起する。	龍谷大学ほか	公人の友社	2005/11/15
305	甦れニュータウン 交流による再生を求めて	高度成長期に建設されたニュータウンはオールドタウン化し、今やノスタルジックな響きさえ感じるようになった。このようなニュータウンを再生するにはどうすれば良いのか。三大都市圏にある多摩、高蔵寺、千里を中心に詳細な実態調査と住民の新しい動きなどをもとに、再生への願いを込めてまとめた。	福原正弘	古今書院	2001/10/10
306	自治力の逆襲 現状を所与としない発想法	これからは、自治体が、真に地方自治的な法システムの実現に向けて、国に対して「逆襲」をする時代である…。軽妙な語り口、豊かな発想法が冴える北村教授の筆さばき。『自治実務セミナー』『産業と環境』連載を単行本化。	北村喜宣	慈学社	2006/3/30

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
307	最新 区画整理 —その理論と実践—	土地法制の第一人者が、区画整理事業の開始から終了まで、自らの実務経験をもとにした実践的な内容で、近時の重要判例や実務動向を踏まえ、区画整理事業の最前線で起こり得る法律実務上の諸問題を具体的に解説しています。	大場民男	新日本法規出版	2007/1/29
308	条例によるまちづくり 土地利用政策	横須賀市は土地利用に関する各種手続について個別の条例を整備し、その上位に土地利用基本条例を据えた「まちづくり条例の体系化」を行った。その経過を検証するとともに各条例の概要を紹介し、条例によるまちづくりのあり方を考察。土地利用を中心に据えたまちづくりの手法を示した唯一の書。	出石稔	第一法規	2006/9/15
309	市民参加のまちづくり コミュニティ・ビジネス編	内外の地域再生の事例・戦略・理論を網羅したシリーズ。継続的に地域課題の解決に取り組む一形態としてのコミュニティ・ビジネスが注目されている。その役割、課題、将来の展望を多角的に検討する。	西川芳昭ほか	創成社	2007/1/20
310	近代群馬の蚕糸業	群馬県は古くから、養蚕・製糸県として栄えてきた。富岡製糸場と近代産業の育成、養蚕・蚕種業の民俗と伝承など、地域に根差した視点から蚕糸業の歴史を見直す。	高経大研究所	日本経済評論社	1999/2/28
311	犯罪予防とまちづくり	防犯の主要概念や、犯罪の性質や規模、犯罪統計をめぐる課題などについて、米国と英国での知見を紹介。さらに、2つの国における最新理論と実践例を紹介し、将来への展望を示す防犯アイデアや教訓を導き出す。	Richard H.Schneiderほか	丸善	2006/6/30
312	大型店立地と商店街再構築 地方都市中心 市街地の再生に向けて	大型店の立地・再編を重層的に把握し、商業活動を軸とする地域経済システムの変動を立体的に捉え、地方都市の中心市街地空洞化の問題や、改正大店法・消費不況と大型店の出店戦略、商店街の盛衰分析と再構築などについて論考。	山川充夫	八朔社	2004/7/31
314	MINTO Vol. 35	財団法人 民間都市開発推進機構が業務内容を広く伝えるほか、識者による寄稿なども掲載されている。Vol.35は中心市街地活性化やまちづくりに関する情報もある。	財団法人 民間都市開発推進 機構		2007/10/1
315	ぐんまの土木遺産	土木構造物等の建設に携わってきた技術者による「土木遺産調査研究委員会」にて構造物そのものだけでなく、当時の社会環境や時代背景及び計画の思想やそれを造る知恵や技術等の発想の原点にまで踏み込んだうえで、それぞれの時代を代表し、土木遺産に相応しいと思われる土木構造物を選定している。	財団法人 群馬県建設技術セ ンター		1998/9
316	駅前広場リフォームのポイント	「利用者の視点にたったヒューマンスケールの駅前広場の再生」をキーワードに、既設の駅前広場を対象に実施調査を行った結果、その傾向を把握した上で、駅種の分類と4つの視点について、明確な重み付けを行い、既存の都市施設の再生にふさわしい環境空間の機能強化及び充実の方向性をまとめることを目的とした。	財団法人 都市づくりパブリッ クデザインセンター		2007/9

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
325	日本型まちづくりへの転換 ミニ戸建て・細街路の復権	狭くてゴチャゴチャした街が悪いのか？「道は広く、建物は大きく」が理想か？全面更新からピンポイント改善へコンパクトで住みよい持続型の街と家をめざせ！	青木仁	学芸出版社	2007/7/30
326	自治と参加・協働 地域づくりを参加型自治の場に！	地域づくりを参加型自治の場に！ 住民自治と基礎自治体のあり方を政治・社会学の理論とまちづくりの現場から問いなおす。	羽貝正美編著	学芸出版社	2007/8/30
327	創造都市への展望 都市の文化生活とまちづくり	文化と産業が共鳴する街をめざして。 行政は何ができるのか？市民は何をすべきか？政策現場からの「理論と実践」。	佐々木雅幸 総合研究開発機構 編	学芸出版社	2007/4/10
328	自治体都市計画の最前線	地域に応じた都市計画へ…。全国の先進事例を掲載。都市計画をめぐる最新判例解説付。	柳沢厚・野口和雄・ 日置雅晴	学芸出版社	2007/2/25
329	公共空間の活用と賑わいまちづくり	現行制度でも可能な手法、運用の基本的事項を網羅、実戦のためのポイントとプロセスを全国26事例に学ぶ。	都市づくりパブリック デザインセンター	学芸出版社	2007/5/30
330	証言・町並み保存	町並み破壊の危機に抗し、地域から新しい価値を創り出したまちづくり第一世代の肉声。 (小樽・函館・角館・女籠・足助・石見銀山・内子・竹富島)	西村幸夫 堀 正 浩編著	学芸出版社	2007/9/10
331	景観まちづくり論	外発と内発のハイブリッドな共発的まちづくりの展開。地域遺伝子を読み解き、景観として表現する。	後藤晴彦	学芸出版社	2007/10/15
332	ドイツ人が主役のまちづくり ボランティア大国を支える市民活動	なぜ、ドイツの都市は元気なのか？なぜ、ドイツ人はボランティアに熱中するのか？市民のボランティア団体「市民協会」、地方自治を牽引する「行政」、公共サービスを提供する「企業」が、巧みに協働しながら築かれる熟成した地域社会の実像に迫る。	松田雅央	学芸出版社	2007/4/10
333	「地域遺産」みんなと奮闘記 プライド・オブ・ジャパンを求めて	地域の復権を願い、人々の思いを形にする。茅葺き民家、蒸気機関車、宿場町、鳴き砂の浜辺、日本人の記憶から失われようとしている。数々の生活文化遺産に光を当て、甦らせた物語。	米山淳一	学芸出版社	2007/5/30
334	衰退を克服した アメリカ中小都市のまちづくり	今、クリチバ市民の98%が「街に誇りを感じる」と答えている。お金も技術もないなかで、なぜ都市づくりが出来たのか。その秘訣は「都市は人間のためにあるべき」という強い信念のもと、都市計画の強い意志を持ち続けたことにある。ブラジルの都市が実現した都市計画の総合性、戦略性、そして実行力を分かりやすく紹介する。	服部圭郎	学芸出版社	2007/12/10
335	フライブルクのまちづくり ソーシャル・エコロジー住宅地ヴォーバン	徹底した省エネと自然エネルギーの利用でエネルギー消費とCO ₂ 排出を激減させ、画期的なマイカー抑制策で車のないまちを実現。数々の輝かしい取り組みを住民主導で成功に導いた軌跡に迫る。	村上敦	学芸出版社	2007/12/10

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
336	中心市街地の創造力 暮らしの変化をとらえた再生の道	中心市街地はなぜ衰退したのか。都心が硬直し、消費者の変化に敏感な新しい起業者の参入を許さなかったからではないか。本書はまず市民の変化を消費、家族、労働の面から捉え、次に都心再生への端緒を掴んだ京都を事例に、街がどう呼応したかを見た。商店街救済や再開発ではなく、市民の創造性を活かす都心への大転換を提言。	宗田好史	学芸出版社	2007/12/30
337	コンパクトシティの計画とデザイン 最新動向に探る持続可能な塾生都市への道筋	中心市街地活性化や公共投資の抑制のために、コンパクトシティの実現に益々の期待が高まっている。本書はその基本原則・政策・計画・デザイン・評価について、海外の最新動向から幅広い事例と教訓を整理し、日本の課題に即して考察した。総合的かつ実践的な解説書として、「量から質」に転換する成熟型都市への道筋を示した。	海道清信 著	学芸出版社	2007/12/30
338	田舎でスローライフを極める	農村、山村、漁村で新たな人生のフィールドを切り開く自然と向きあって、自分らしく生きる自らを耕しながら、地域も元気にするそんな素敵な“生き方の達人”たち。	清木たくや	学芸出版社	2007/12/10
339	モビリティ・マネジメント入門 「人と社会」を中心に据えた新しい交通戦略	交通問題を「社会問題」としてとらえ直し一人ひとりの行動の転換を促す新しい交通まちづくり。「クルマ」と「公共交通」をかしこくつかう豊かなライフスタイルのすすめ。	藤井聡・谷口綾子	学芸出版社	2008/3/10
341	中心市街地の成功方程式	「まちづくり三法」が改正され、日本各地で中心市街地の再生を目指して、関係者の新たな取り組みが始まった。「シャッター通り」の汚名を返上し、にぎわいのある“まち”にするために必要なものはなにか。魅力ある「オンリーワンのまちづくり」実践のためのユニークなアイデア、そのための成功方程式を満載した、関係者必読の書。	細野助博	時事通信社	2008/2/1
342	初めて学ぶ都市計画	・初めて都市計画を学ぶ学生のために・・・・まちづくりに関心のある社会人のために・・・・21世紀はこれまでと違う局面で都市化が進み、新たな都市問題に立ち向かうことになるでしょう。・市民・住民たちが、そして時代を背負う若者達が、自分たちのための都市計画として何をすべきか・・・。	饗庭伸・加藤仁美・鈴木伸治・伊達美徳・根上彰生・柳沢厚・阿部伸太・清水哲夫・瀬田史彦・牧紀男	市ヶ谷出版社	2008/3/28
343	着地型観光 地域が主役のツーリズム	地域が元気になる！国内旅行を買える！体験交流の「旅づくり」その考え方と実践方法を豊富な実例をもとに解説。	尾家建生・金井萬造 編著	学芸出版社	2008/11/10
344	日本版スローシティー 地域固有の文化・風土を活かすまちづくり	どこでもできる、地域資源と市民のアイデアによるまちづくり。市民ライフスタイルを尊重し、地域固有資源を市民自らが発見活用する地域再生の事例と方策を詳解。	久繁哲之介	学陽書房	2008/4/20
345	分権政策法務と環境・景観行政	地方分権時代に重視される政策法務として、環境・景観行政を中心に、具体的実務でどのように活かすのかを、豊富な例で提言する。	北村喜宣	日本評論社	2008/11/15

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
346	政策法務辞典	本書は、自治体の政策法務をめぐる様々な問題を項目・類型別に整理し、判例や先駆事例を交えながらわかりやすく解説した事典です。政策法務について、先端的な取組みをしている研究者と自治体職員が共同で執筆しました。まさに理論と実務の両面を兼ね備えた一冊です。	兼子仁、北村喜宣、出石稔 共著	ぎょうせい	2008/9/10
347	まとまりの景観デザイン 形の規制誘導から関係性の作法へ	ふつうのまちの景観づくり。建物や敷地単位のデザイン規制だけでは、景観はよくなる。大事なのは地域を読み、周辺との関係を紡ぎ出すこと。変化を前提としたうえで、つなぐ計画、まとまりのデザイン、協議のしくみ、景観法の活かし方を説く。	小浦久子著	学芸出版社	2008/9/10
348	新地場産業と産業環境の現在	「新しい時代に即応した地場産業と産業環境」を課題として当チームのメンバーが研鑽してきた賜物。	高崎経済大学付属産業研究所 編	日本経済評論社	2007/3/31
349	大学と地域貢献 一地方公立大学付属研究所の挑戦	大学と地域を結ぶ智の産研。	高崎経済大学付属産業研究所 編	日本経済評論社	2003/11/10
350	地域と大学の共創まちづくり	中心市街地再生や地域資源活用から、環境のマネジメント、地域経済の創出、その担い手育成・仕組みづくりまで、国内外の進化するまちづくり、31事例を詳解。	小林英嗣＋地域・大学連携まちづくり研究会	学芸出版社	
351	失敗に学ぶ中心市街地活性化 英国のコンパクトなまちづくりと日本の先進事例	旧まちづくり三法の失敗と、郊外店の優位をくつがえした英国の経験に学び三法改正後の課題を明示。先進事例を徹底検証。	横森豊雄・久場清弘・長坂泰之	学芸出版社	2008/8/30
352	コンパクトシティ再考 理論的検証から都市像の探求へ	輻輳する諸問題を同時に解決する都市像とは？混乱する議論を整理し、トレードオフ・補完関係にある諸課題をシステム思考をベースに検証する。	玉川英則 編著	学芸出版社	2008/11/30
353	失われた景観	四つの事例(郊外、神戸市、真鶴町、電線地中化問題)を通して、日常景観を汚しても省みない日本社会の実像を映し出す。景観保全が活力ある未来を生むと説く、異色の社会経済論。	松原隆一郎 著	PHP研究所	2002/11/29
354	建築とまちなみ景観	建築士などの建築関係者の方々が良好な景観形成に取り組む際に手引きとして活用いただくことを念頭において作成され、また住民が景観形成に関する理解を一層深め、地域活動を進めるうえでの参考書としても活用できるように先進的な事例紹介を中心として判りやすく構成している。	ぎょうせい	実学としての都市計画編集委員会	2005/2/1
355	景観まちづくり	まちづくりを共通に理解し学ぶための教科書。	日本建築学会 編	丸善(株)	2005/6/20
356	まちづくりと景観	日本では、自然の風景の素晴らしさと裏腹に、街並みや都市の景観の多くは美しいとは到底いいがたい。それは、なぜなのか。住むに値し、訪れる魅力を備えた「まち」は、どうしたらつくられるのか。無秩序なビル建設、醜悪な広告塔などを排するだけでなく、賑わいと潤いのある、真に美しい都市の可能性を、内外の具体例を挙げながら考える。	田村 明 著	岩波新書	2005/12/20

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
357	景観法を活用するための環境色彩計画	地域の人々がまちを活性化させ、維持させる「元気なまちづくり」の基本となる「3つの原則と9つのポイント」の説明と、全国から10のまちづくり事例を詳しく解説。地方都市の市街地活性化に役立つ一冊。	吉田 慎悟 著	丸善(株)	2005/9/25
358	美しい都市・醜い都市	日本橋の首都高移設や景観法制定など、「美しい国」をつくる動きが始まったが、「美」とは何か？新世代の論客が、平壤取材からアニメの中の未来都市まで、縦横無尽に検証する。写真多数。	五十嵐太郎 著	中央公論新社	2006/10/10
359	風土色による色彩学のすすめ	本書は、「人間は、なぜ美しく調和のとれた色彩環境を求めめるのか」の基本命題を、ゲーテの色彩論の哲学的研究から解きほぐし、イッテンの色彩論を根拠として、色彩の選定とその調和についてのよりどころを風土色に求め、客観的かつ実際的な方法「カラーグループボード色彩調和論」を導き出したものである。	尾崎真理+佐久間 彰三	彰国社	2006/9/20
360	壊れゆく景観 —消えていく日本の名所	日本の美しい自然は、古来から歌人や思想家に感動を与え、多くの作品を生み出してきた。そしてそれらは人々に喜びと発見を与え、日本人ならではの豊かな精神を育んできた。本書は、文学と自然の深い結びつきを例証し、「開発」の名のもとに進む歴史的景観の破壊に対し、厳しい警鐘を鳴らしている。	川村晃生・浅見和彦	慶應義塾大学出版会	2006/11/10
361	景観用語事典	「景観法」の公布等に伴い、法制度と体制づくり、文化財関係を充実させたものです。用語は厳選した123項目からなり、それらを景観の基本概念から関する各分野を体系的に理解出来るように工夫してあります。	篠原 修 編	彰国社	1998/11/10
362	光の景観まちづくり	ライトアップ、イルミネーション、光の芸術、光の街並み。国内外の個性的でにぎわう夜景を紹介。大阪の取り組みからプロセスと実戦手法を示す。	面出薫+光のまちづくり企画推進委員会	学芸出版社	2006/12/10
363	土木と景観 風景のためのデザインとマネジメント	土木の役割は変わりつつある。つくる時代から維持・管理の時代へ移るその過程には、市民の意欲と参加が欠かせない。構造物の建設だけでなく、地域の生活に密着したつくり方・使い方のマネジメントが求められる。今日の土木技術者が持つべき目標と役割を、交通・政策・防災・参加・歴史の視点から気鋭の研究者が論じた意欲作。	田中尚人・柴田久(編) 藤井聡・秀島栄三・横松宗太(著)	学芸出版社	2007/4/10
364	景観法と土木の仕事	土木学会誌の記事の中から、内容が面白くて役立ち、対象とする読者は広いものを選んで、「学会誌叢書」と名付けた単行本。	佐々木 葉	土木学会	2007/9/10
365	街づくりルール形成の実践ノウハウ	市町村における街づくりの法政策。小田原市の街づくりルールをつくる過程で得られたノウハウをまとめたもの。街づくりルールを作るのに悩んでいる行政実務者の方に参考となる一冊。	藤川真行	ぎょうせい	2008/1/10

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
366	景観形成とまちづくり 「国立市」を事例として	平成19年度都市政策コースの演習型講義(プロジェクト型総合研究)に招いた外部講師の講義内容をもとに発刊された、都市政策フォーラムブックレットの第2号。都市政策コースの教育・研究成果の公開のために、学内外に開かれた交流の場を目指して、該当年度の研究・教育活動の内容を踏まえて都市政策コースのスタッフが企画し、ブックレットとしたもの。	首都大学東京 監修	公人の友社	2008/3/20
367	西村幸夫風景論ノート	景観法制定前後から今日に至るその時々の景観施策論。地域で具体的に景観施策を立てる際の実体的な中身に関する方法論。そして、都市再生論議における都市環境の再生論などに主眼に置いて、これまで書いてきた小文を纏めたもの。各地で急速にひろまりつつある景観施策の試みの多様な様子を映し出す。	西村幸夫 著	鹿島出版会	2008/3/20
368	景観からの道づくり 基礎から学ぶ道路景観の理論と実践	平成16年5月から11月にかけて、道路行政担当者および道路景観整備の実務担当者を対象に東京大学アジア生物資源環境研究センター 堀繁教授が行った「景観からの道づくり」がテーマの講話をまとめた講話集。気軽に読め、読むだけで講話を疑似体験でき、かつ、景観整備の本質と理論を理解することができる。	堀 繁 著	(財)道路環境研究所	2008/3/29
369	風景学 風景と景観をめぐる歴史と現在	風景や景観をめぐる議論は、近年きわめて活発である。社会政策としての景観行政がクローズアップされる中で、建築学、土木工学、都市計画学、認知心理学などでも盛んに風景や景観がテーマとして取り上げられるようになった。本書は、これまでの、さまざまな分野からのアプローチの成果を、近代社会の成立・成熟の過程という時間軸により整理することで「風景学」の構築を目指している。	中川 理 著	共立出版	2008/7/30
371	「間」と景観 敷地から考える都市デザイン	対象を歴史文化が今なお息づき、複雑で洗練された京都のまちにおき、伝統的な寺院敷地と川・山などの位置関係や、地形との関係を研究・分析しながら、自然との間のとり方を考えていく。「敷地」を媒介とし、景観を読み解くことによって、新たな都市デザインへのヒントを探ろうとする書である。	山田圭二郎	技報堂出版	2008/5/25
372	景観法活用ガイド 市民と自治体による実践的景観づくりのために	日本建築学会都市計画委員会に設置された「まちづくり・建築ガイドラインワーキンググループ」(WG)のメンバーが中心となって執筆した、景観法活用の可能性を、景観法の基本的な使い方とともにまとめた活用ガイド。	(社)日本建築学会	ぎょうせい	2008/7/20
373	場所の空間学 環境・景観・建築	建築都市設計デザイン関係の入門書。 地球環境と地域文化環境の持続のための新時代の空間システムの確立には、地域文化に根ざした空間システムの再構築が必要だとする著者が、地域づくりのための空間計画の基本的な考え方・新たな指標を、具体的な事例をあげながら解説する。	宇杉和夫	古今書院	2008/7/1
374	景観まちづくり最前線	わがまちの実情にあった景観施策をどう進めるか。景観法を活用した25事例を行政担当者が詳説。実践的な景観計画のつくり方を実務家が手引。一歩踏み込んだ進め方・展望を研究者が提言。	自治体景観政策研究会	学芸出版社	2009/1/10

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
375	実学としての都市計画	100年後も生き続けるまちをつくる。まちづくりにかかわる、すべての人へ贈る地球環境問題、中心市街地活性化、少子高齢対策、都市経営など課題を乗り越えていくための実践的な道しるべ。	実学としての都市計画編集委員会編	ぎょうせい	2008/10/20
376	風景学入門	環境問題が景観問題を素通りして公害問題というかたちで深刻化し、美しい国土の景観が容赦なく悪化の一途をたどりつつある今日、人間環境の眺めである景観の意味と価値を問い直すために、本書は、まず風景の視覚像の特性を明らかにし、古今のさまざまな風景体験を精査することから、人間の明日の生活環境を整える技術的知識体系の一環として「風景学」を構想する。風景を目きし、風景への愛着を培うための一書。	中村良夫	中央公論新社	1982/5/25
377	食文化の風景学	雨の風景の研究成果を主体に「移ろいの風景論」として世に問うてからしばらくして、食文化の風景学も可能ではないか、いつの日か誰かがそれを書かねば、という話になり、それからまた月日が過ぎ、そろそろ忘れかけながらも、心待ちにしていた研究成果がついに出版。	小林 享	技報堂出版	2007/9/20
379	都市計画の理論	都市計画は、豊かな生活に役立つか！？その必要性和有効性、価値と目標、主体と決定方法という根本に立ちかえり世界の最新理論を紹介しながら、わが国独自の方向性をさぐる。	高見沢実	学芸出版社	2006/1/30
380	都市計画はどう変わるか	「地域価値」を高め、「持続可能性」のある都市づくりへ。都市計画法、まちづくり三法、建築基準法、住生活基本法、国土形成計画法、国土利用計画法、景観法など、新たな仕組み作りに関わった筆者による考察。	(編著) 小林重敬	学芸出版社	2008/6/10
381	町の木公園の木図鑑(春・夏)	町の中、街路樹、公園、各個人の庭などに見られる樹木約380種を取り上げ、原産地、花期、分布、分類や木の特徴、見分け方のポイント、有毒か食用かの表示などもし、だれでも木の名前がわかるようにした図鑑。	おくやまひさし	大日本図書	2001/12/30
382	町の木公園の木図鑑(秋・冬)	町の中、街路樹、公園、各個人の庭などに見られる樹木約380種を取り上げ、原産地、花期、分布、分類や木の特徴、見分け方のポイント、有毒か食用かの表示などもし、だれでも木の名前がわかるようにした図鑑。	おくやまひさし	大日本図書	2001/12/30
383	景観からの道づくり 基礎から学ぶ道路景観の理論と実践	「美しい国づくり政策大綱」、さらには景観法の制定等により「景観」への関心が高まるなか、ともすればその景観設計、景観整備といった中で“手法”のみが強調されがちであるが、景観整備に画一的な手法を適用するのは危険であり、道路において良い景観整備を進めるためには、『景観とは何か?』、『景観はなぜ重要なのか?』といった基本について、正しく理解することは重要である。本書は「景観からの道づくり」をテーマに講話を頂いた内容をまとめたものである。	堀繁(著書・講話) 財団法人道路環境研究所(編集)	大成出版社	2008/3/29

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
384	山の風 花のうた	「花の装い風のうた」(群馬県文学賞)から十年。更に「続・花の装い風のうた」(日本文芸アカデミー賞)のあとも山に登り、野を巡って、書き留めた山と花のエッセーと著者撮影の花々が「山の風、花のうた」となって登場！	あらいまさはる	教育報道社	2007/9/10
385	ガーデニング花木入門 (別冊NHK趣味の園芸)	庭木、花木の新しい利用場面を念頭においた樹種別の育て方、仕立て方を解説。		日本放送出版協会	2002/4/20 2009/8/25
386	毎年花咲く宿根草花 (別冊NHK趣味の園芸)	宿根草花の魅力と栽培の仕方、楽しみ方を、豊富な実例で紹介したものです。実際に宿根草花を選び、育て、咲かせていくために必要な情報を網羅しています。		日本放送出版協会	
387	ナチュラルガーデンをつくる宿根草 (別冊NHK趣味の園芸)	宿根草とはどんな植物か、その生育特性や生育サイクル、上手な使い方や楽しみ方、失敗しない上手な育て方をわかりやすく解説。		日本放送出版協会	2008/4/20 2010/1/30
388	四季のハーブガーデン ～育てて楽しむかおりの暮らし	ハーブガーデンのつくり方や管理法から、料理、ティー、ポプリ、クラフトなどハーブを四季の衣食住すべてに役立てるアイデアを紹介。	北川やちよ	農山漁村文化協会	2007/3/31 2007/11/20
389	土木計画学—公共選択の社会科学	PI、合意形成、景観・風土論、災害リスク、モビリティ・マネジメント等 今日の社会・都市問題を捉えた公共政策論。	藤井 聡	学芸出版社	2008/6/10
390	バルセロナ旧市街の再生戦略	過密街区に「穴」を空け、広場や大通りを創り出す孔質化。それによって再び人が集まり始めた。経済に追従する再開発と一線を画し、行政主導の意志と戦略が実現させたバルセロナ・モデル。そのダイナミックな街の変貌が問いかける、誰のための都市なのか。	阿部大輔	学芸出版社	2009/2/28
391	観光まちづくり	住民、来訪者そして観光関係者もなっとく！地域資源を活かした自律的な観光振興のあり方を説く。	西村幸夫	学芸出版社	2009/2/10 2010/2/20
392	まちなか戸建	ユーザーは都市型戸建を望んでいる スラム化の恐れが指摘されてきたミニ開発・ミニ戸建だが、戸別更新がうまく進んでいる例も多い。地域ビルダーや自治体の先進的取り組みから、都市居住の将来を展望する。	森本信明 前田享宏	学芸出版社	2008/10/30
393	まちづくりの「経営力」養成講座	「補助金頼み」「ボランティア任せ」「イベントばかり」の活動から抜け出し、継続して成果を出せる事業にするための考え方がわかる！	木下 斉	学陽書房	2009/10/15
394	地域主権で始まる 本当の都市計画・まちづくり	機は熟した。根本的変革へ向けた具体的提案 このままでは20年後に街は住めなくなり、里は壊れ、文化は消える こんな法制度では地域主権も持続可能性もあり得ない。今こそ変えよう！都市計画法・建築基準法。	蓑原 敬	学芸出版社	2009/12/10
395	世界の地球温暖化対策	持続可能な成長を築く低炭素経済への大転換。	浅岡 美恵	学芸出版社	2009/8/10

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
396	参加と協働のデザイン	NPO法施行から10年、日本に参加協働型市民社会は形成されたか。本書は、参加から協働へのデザインの理論を再整理し、各地で多様な実践を行い成果をあげた事例を紹介。	世古一穂	学芸出版社	2009/10/15
397	地域生態学からのまちづくり	健康な地域環境をいかに守り育てるか。地域の自然と歴史を読み解く地域生態学から明らかにする。	上甫木昭春	学芸出版社	2009/9/10
398	日本の言語景観	公共空間における「書き言葉」の西欧化・国際化・多民族化。その歴史と現状から、日本社会の変容を読みとっていく。	庄司 博史・ ペートバックハウス	三元社	2009/3/30
399	生活景 —身近な景観価値の 発見とまちづくり	官製の都市計画から市民主体のまちづくりへの社会背景の大きな変化を受けて、このような生活に根ざした景観を再発見する。これを「生活景」と呼び市民の共通の意識のもとに置き、あらたな価値づけを与えることを試みるために本書は企画された。	日本建築学会	学芸出版社	2009/3/30
400	景観形成と地域コミュニティー —地域資本を増やす景観政策	「生活環境主義」「地域資本」「責任主体としての地域コミュニティ」をキーワードにした「地方から」の景観論。地域の暮らしと個性を生かし、地域資本を増大させる景観形成はいかに可能か。各地の実践に学ぶ。	鳥越皓之・ 家中 茂	農山漁村文化協会	2009/2/10
401	河川景観デザイナー	「河川景観の形成と保全の考え方」の解説と実践。	河川景観の形成と保全 の考え方検討委員	リバーフロント整備センター	2008/7/20
402	日本の町並み集落1300	全国各地の取材地、1,300ヶ所余。掲載写真点数1,450点余。 先祖から受け継いだ伝統に育まれた、個性豊かで多様な様相・景観を示す日本の町並み集落。	川村善之	淡交社	2010/3/8
403	景観学への道 あるべき景観の姿を求めて	景観には基準となる物差しがない。経済利益とのせめぎ合いで、景観裁判はほとんど原告の敗訴に終わる。歴史や風土、時代、主観にかかわる景観ははたして学として成り立つのか。	藤沢 和	日本経済評論社	2009/11/5
404	公共の色彩を考える —景観まちづくりのヒント—	環境色彩のバイブル！建築家・色彩計画課・自治体の行政担当者必携の実践書。	公共の色彩を考える会・ 田村 美幸	公共の色彩を考える会	2009/8/20
405	カラーコーディネーションの実際〈第3分野〉 カラーコーディネーター検定試験1級 公式テキスト環境色彩(第2版)	環境分野の色彩専門家になるための実践・応用力を身につける充実の1級公式テキスト。	東京商工会議所	東京商工会議所 (中央経済社)	2003/6/5 第二版 2008/3/31
406	カラーコーディネーション—カラーコーディネーター検定試験2級 公式テキスト(第2版)	生活者・生産者・カラーコーディネーター3者の視点から色彩を捉えた充実の2級公式テキスト。	東京商工会議所	東京商工会議所 (中央経済社)	2003/6/5 第二版 2007/2/10
407	カラーコーディネーション—カラーコーディネーター検定試験3級 公式テキスト(第3版)	色彩に関するAtoZをこの一冊網羅！ビギナー必読の3級公式テキスト。	東京商工会議所	東京商工会議所 (中央経済社)	2001/5/31 第二版 2002/3/8 第三版 2007/2/10
408	地域とランドマーク —象徴性・記号性・場所性	ランドマークのもつ諸要件を各種の事例から明らかにし、景観・風景要素としてのランドマークがいかに人間の空間行動や感性に作用し、地域づくりやまちづくりに寄与する可能性があるのかを追求したもの。	津川康雄	古今書院	2003/3/25

おもしろまちうちライブラリー 【蔵書一覧】

2023年7月更新

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
409	道路は、だれのものか 交通革新モデル[駐車デポジットシステム]インパクト	人間の最高の発見のひとつである自動車を否定するものではなく、人が集まって文化を享受すべき「都心部」において、現代の「暴れ馬」ともいわれる自動車が集まりすぎており、それを「うまく管理」(マネジメント)すれば“街は甦る”ということを主題としている。	森川高行	ダイヤモンド社	2010/9/30
410	図解 次世代自動車ビジネス早わかり	自動車業界の知識が十分でない方でも、昨今脚光を浴びている「次世代自動車」とそれを取り巻く環境、また将来の可能性について理解していただける様に、イラストや 図を交えて分かりやすく概説した解説書です。	デロイトトーマツ コンサルティング(株)	中経出版	2010/9/17
411	人口減少時代のまちづくり 21世紀=縮小型都市計画のすすめ	百年後、日本の人口は3分の1に。「人口減少」は衰退につながる一として、殆どの自治体計画はいまだに人口増を想定している。そうではなく、人口減少を前提条件として今後どのようなまちづくりを進めるべきかを、海外の具体的事例に学びつつ、考えていく。	中山 徹	自治体研究社	2010/8/6
412	地方都市圏の交通とまちづくり 持続可能な社会をめざして	地域交通の再生で、まちも甦る。(多様な事例と実践に学ぶ) 環境・社会・経済をトータルに捉えた総合的な交通まちづくりの考え方。	辻本勝久	学芸出版社	2009/4/30
413	撤退の農村計画 過疎地域からはじまる戦略的再編	過疎集落の現実を直視した、もうひとつの提案。強制的な移転や放置には反対だが、すべてを維持するのは非現実的。生活と共同体、国土の保全を見据えた、選択的な撤退とは。	林 直樹 齋藤 晋	学芸出版社	2010/8/30
414	街を編む敷地を織る 街区再編・敷地整理 プロジェクト	敷地から建物を考えるのではなく建物から敷地を創り出す。建物計画の隘路を区画整理で解いた全国12の事例。	大場 雅仁	大成出版社	2008/11/28
415	まちづくりのための交通戦略 パッケージ・アプローチのすすめ	高齢社会、低炭素社会を踏まえて刷新 人と環境にやさしい交通をめざして 日本だけが車編重・都市交通政策不在でよいのか？世界で急展開する自治体主導の交通政策の理論と手法を示す。	山中英生 小谷通泰 新田保次	学芸出版社	2000/5/30 2010/2/10
416	都市の文化と景観	宇治、金沢市街地、巢鴨地蔵通商店街、石のまち大谷、貞山運河、四万十川など暮らしに育まれた全国各地の魅力あふれる文化的景観を紹介。	文化庁文化財部記念物課 (編者) 住に関連する文化的景観の保護に関する調査研究会	同成社	
417	都市計画 根底から見なおし新たな挑戦へ	痛切に求められている「地域の安定と活性化」を実現するには、成長時代の都市計画を脱皮し、地域による地域のためのまちづくりを切り開かねばならない。何から始めるべきか？この分野の第一級の論者に、福祉・交通分野の専門家も加え、自治体、市民、専門家の連携で、総合的な都市政策と直結する都市・地域計画を提言する。	(編著者) 養原 敬 (著者) 西村幸夫、佐藤 滋 大方潤一郎、中井検裕 広井良典、小川富由 若林祥文、木下真男	学芸出版社	2011/2/1

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
418	人口減少時代の都市計画 まちづくりの制度と戦略	逆都市化、超高齢社会、低炭素、地方分権、都市間の連携と競争 突きつけられた課題にいかに対応するか？ 自治体と市民・民間主導のまちづくりを支える都市計画の大改革を構想する。	大西 隆	学芸出版社	2011/3/1
419	近代ツーリズムと温泉	湯治場から観光地へ 温泉はどのように「観光地」となったのか。 鉄道網の発達やメディア・イベント、余暇の「発明」など、近代のツーリズムが拡大するなかで、大きく変わった温泉地。その姿を当時のガイドブック・絵はがき・鳥瞰図などをもとに鮮やかに描き出す。	関戸明子	ナカニシヤ出版	2007/8/1
420	美観都市パリ 18の景観を読み解く	フランスの景観についての研究を行ってきた体験を活かして、パリの景観を18選び、空間の意味を読み解く。	和田幸信	鹿島出版会	2010/9/20
422	再現 江戸の景観 広重・北斎に描かれた江戸、描かれなかった江戸	江戸湾や、江戸城、富士の眺めを巧みに取り入れた江戸の風景画。絵師が好んで描いた絵図を資料に、当時の都市景観をビジュアルに再現し、その手法を紹介。現代までほとんど明らかにされていなかった“江戸の眺め”の実態を探る。	清水英範 布施孝志	鹿島出版会	2009/12/30
423	まちづくりを学ぶ 地域再生の見取り図	都市計画、地域経済、流通、地方財政、景観、安全学など多面的視点から解説しつつ、共通した概念やフレームワークを提示し、その意義や現状・歴史、課題を明らかにするスタンダードな概説書。	(編者) 石原武政 西村幸夫	有斐閣	2010/9/30
424	景観生態学 生態学からの新しい景観理論とその応用	「環境要素が均一な場」をとらえ、そのパターンとプロセスが生物に与える影響を検討する景観生態学の知見は、生物多様性保全、地域生態系の管理、都市計画など、土地利用にかかわるすべてのシーンで応用可能である。常にこの分野の確立と発展の先頭に立ってきた北米の研究者による、基本概念や手法から応用までをバランスよく配したテキスト。	モニカG.ターナー ロバートH.ガードナー ロバートV.オニール	文一総合出版	2004/9/14 2006/3/31
425	概説 まちづくり三法の見直し 都市計画法・中心市街地活性化法の改正	都市計画法及び建築基準法の一部改正と、中心市街地における市街地の整備改善及び商業等の活性化の一体的推進に関する法律の一部改正を中心に、新旧対照条文を添え、その内容について紹介する。	(監修) 国土交通省 都市・整備局まちづくり 推進課/都市計画課	ぎょうせい	2006/6/20
426	自治体法務サポート ブックレット・シリーズ5 条例によるまちづくり・土地利用政策 ー横須賀市が実現したまちづくり条例の体系化ー	横須賀市は土地利用に関する各種手続について個別の条例を整備し、その上位に土地利用基本条例を据えた「まちづくり条例の体系化」を行った。その取組経過を検証するとともに各条例の概要を紹介し、条例によるまちづくりのあり方を考察。土地利用を中心に据えたまちづくりの手法を示した唯一の書。	(編著者) 出石 稔	第一法規	2006/9/15
427	行ってみたい！と思わせる 集客まちづくりの技術	「うちのまちには何もし…」と、諦めるにはまだ早い！ 地域のお宝を探し出し、“ちょっとした工夫”を加えることで、魅力のあるまちに生まれ変わる！ “住んでよし、訪れてよし”のまちづくりの手法がわかる！	大下 茂	学陽書房	2011/2/25

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
428	まちづくり 政策実現ガイド……その鉄則とワザ	土地利用・中心市街地・公共交通など、実際のまちづくりには課題が盛りだくさん！現状を知り、まちの身の丈にあった将来像を描く「鉄則」や、法律・制度にも基づいた上手な財源づくりや人材活用という「ワザ」を示す。	(編著者) 今井晴彦 上田紘士 小浪博英 司波 寛	ぎょうせい	2010/2/15
429	群馬の逆襲 日本一「無名」な群馬県の「幸せ力」	北関東の「ライバル」栃木・茨城より、ちょっと前の佐賀より、やっぱり群馬は地味で、印象が薄くて、不幸?2008年調査、47都道府県の「地域ブランド力」ランキングで、群馬県は最下位の47位。…著者が暮らしている群馬を例にあげ、「日本一の無名力を誇る群馬県の、最も高い幸福度」を証明。笑う地域活性本。	木部克彦	彩流社	2010/5/25 2010/6/25
430	日本の美しいまちなみ事例vol.2 都市景観大賞「美しいまちなみ賞」受賞地区 2006～2010年	都市景観大賞を受賞された地区のまちなみ景観及びその取り組みを紹介。	(編集) (財)都市づくりパブリック デザインセンター	(発行) (財)都市づくりパブリック デザインセンター	2011/2
431	低炭素都市 これからのまちづくり	温暖化防止-都市がすべきこと 建築、交通、暮らし、都市計画、都市政策のあり方を最前線で取り組む筆者らが、最新情報をまじえて説く。	大西 隆 小林 光	学芸出版社	2010/1/30 2010/11/20
432	コミュニティデザイン 人がつながるしくみをつくる	モノをつくるのをやめると、人が見えてくる。 状況はまだまだ好転させられる。	山崎 亮	学芸出版社	2011/5/1 2011/7/10
433	つくること、つからないこと 町を面白くする11人の会話	「コミュニティデザイン」の山崎亮と、ランドスケープアーキテクト長谷川浩己が語る最新作。 デザインにできることはもっとある。本当につくりたいのは、楽しめる“状況”なんだ。	長谷川浩己 山崎 亮	学芸出版社	
434	住民参加の再生 空虚な市民論を超えて	規範的な「市民」像は空虚である。実態的な「住民」の生活を向上させるには、どのような地方自治の営みが必要なのか。わかりやすく体系的に論じる。 日本の地方自治論では「協働」という言葉がよく使われるが、対象である住民が実態として機能しない限り行政のひとりよがりには過ぎない。規範的に住民が論じられてきたことによって、住民に密着した政策論が展開できなかった。本書は、実態的な住民の生活をいかに向上させるかという観点から、地方自治を体系的に論じる。	牧田義輝	勁草書房	2007/6/20 2009/12/15
435	まちづくり・環境行政の法的課題	「都市環境行政」とは何か。従来の行政法理を問い直す。「まちづくり・環境行政」を一つの現代的な行政領域と捉え、その法的課題を総合的に研究。公務員研修や法科大学院の教材としても最適。	(編著者) 芝池義一 見上崇洋 曾和俊文	日本評論社	2007/8/25
436	都市計画とまちづくりがわかる本	鳥瞰的な都市計画の視点と虫瞰的なまちづくりの視点を併せもった教科書。都市計画49テーマとまちづくり48テーマ、合わせて97テーマからなる。第1章、第2章を通して読むと、この100年の我が国の「都市計画からまちづくりへ」という動きが理解できる。	(編著者) 伊藤雅春 小林郁雄 澤田雅浩 野澤千絵 真野洋介 山本俊哉	彰国社	2011/11/10

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
437	アグリ・コミュニティビジネス 農山村力×交流力でつなぐ幸せな社会	農山村は資源の宝庫である。そこで自然と文化を活かした暮らしやビジネスを起こすことで、長年断絶されてきた都市と農村の交流を促し、新たなヒトとカネの流れを生み出す。本書では地域の課題解決と豊かな社会づくりに取り組む企業や自治体、新規就農者の取り組みを紹介。人も地域も輝く仕事がいあわせな地域社会をつくる。	大和田順子	学芸出版社	2011/2/10 2012/3/20
438	水と日本人	私たちの伝統的な水利用のかたちとはどのようなものであったか。公共空間としての水場にはどのような文化が生まれてきたか。「うまい水」を飲んで暮らしていくという共通の利益のために、先人達が経験から得てきた知恵を振り返って手がかりとしながら、今、直面している課題について生活実態に沿った解決策を模索していく。	鳥越皓之	岩波書店	2012/2/15
439	世界が賞賛した日本の町の秘密	これからの町の姿を考えたときにキーワードになるもの—それは「エコ」「持続可能」「コンパクト」。いままでのような高い経済成長が望めず、化石燃料などの枯渇もささやかれる現代において、先進各国では町の姿から次の時代を模索している。そうしたなか、世界が日本に注目しはじめた!街の構造、交通インフラ、交通手段、景観、そしてそれらと結びついた日本人の習慣にこそ、世界がめざす方向のヒントが詰まっている。	チェスター・リープス (訳) 服部圭郎	洋泉社	2011/12/21
440	安全で心地よい環境をつくる 人間都市学	都市のつくられ方やそこでの人間の行動・心理、また都市特有の問題への理解を深めながら都市の環境デザインのあり方を考える入門書。都市を観て、感じて、めぐり、わかり、好きになるといった、日常的な私たちが都市を体験する際の関わりを切り口に、写真や図で示した具体例とともに詳述。都市・建築デザインの初学者に限らず、身近な都市環境に関心のある一般の方にも役立つ内容となっている。	大野隆造 小林美紀	井上書院	2011/9/30
441	中高層マンション問題を円満解決するには	第一線で活躍する自治体職員による報筆! ものがたりで学ぶ「政策法務」の基礎知識。	(監修) 出石 稔 横須賀市まちづくり 条例研究会	第一法規	2009/10/5
442	都市・まちづくり学入門	パワーとマネーにより「大きくつくる」都市計画は終わった。これからは個々人が自分の周囲にある環境の特性や周りにいる他者との関係性を意識し、小さな自律的な変化を積み重ねながら「自ずと成らしめる」まちづくりの時代だ。そこで必要となる環境を読み取る知識や技法、協働・共生のしくみづくりに向けた基本知識を示した。	久 隆浩 柴田 祐 嘉名光市 林田大作 坂井信行 篠原 祥 松村暢彦 永田宏和 宮崎ひろ志 下村康彦 室崎千重	学芸出版社	2011/11/1

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
443	都市環境デザインのすすめ 人間中心の都市・まちづくりへ	なぜ地方都市は魅力がなくなったのでしょうか。その一因は誤った計画とデザインではないでしょうか。これから必要なのは、住まいを重視し都心居住を誘導する都市計画への大胆な変更、自動車への過度の依存からの脱却、都市らしい文化・生活環境の再生です。欧米諸国はもちろん、国内でも先進的な取組が成果を上げています。再生と持続のデザインを750枚の図版と、門司港レトロ、横浜、那覇など、著者の実績も交えて示します。	中野恒明	学芸出版社	2012/5/1
444	風景の思想	「日本人は風景をどのように見てきたのか」「これから風景とどのように関わり合っていけばよいのか」について論じた意欲作。哲学、中世史、美術史、民俗学、生態学、農学、景観、都市計画、建築学、河川工学、土木デザインの専門家が、根源に立ち返り、風景とのかかわり合いをいかに主体的に回復していくのかを明らかにする。	西村幸夫 伊藤 毅 中村 祐	学芸出版社	2012/6/15
445	市民のための景観まちづくりガイド	街に溢れるド派手看板や広告物、高さも形も色もバラバラな建物の群…日本のまちはなぜこうなのか？「何とかしたい！」と思うアナタに、日本では数少ない「景観アドバイザー」として活躍する著者がやさしく解説。基本的な考え方から「では何から始めればいいのか」まで、チェックポイントとともに紹介する。	景観アドバイザー 藤本英子	学芸出版社	2012/9/15
446	まちへのラブレター 参加のデザインをめぐる往復書簡	参加型デザインって、コミュニティって、「つくらない」デザインって何だろう？建築家とコミュニティデザイナーによる、仲むつまじくもシリアスなやりとりから、従来の建築家像やデザインの意味を問い直す。ある駅前整備プロジェクトを通じて、二人のデザインが如何に融合してゆくのか、その過程を追体験する試み。	幹 久美子 山崎 亮	学芸出版社	2012/9/15 2012/10/30
447	空き家・空きビルの福祉転用 地域資源のコンバージョン	既存建物の福祉転用は、省コスト、省資源につながり、新築では得難い便利な立地やなじみ感のある福祉空間が作り出せる。だが実現には福祉と建築の専門家の協働が欠かせない。そこで関係者が共通認識を持てるよう建築や福祉の制度・技術を紹介し、様々な限界をクリアしている先進37事例を、その施設運用の実際と共に掲載した。	日本建築学会 編	学芸出版社	2012/9/20
448	まちづくり 季刊37 1301	今号は自律をテーマとして、復興を願う被災地に必要なことは、上からではなく、地域（コミュニティ）が自主的にマネジメントしていく自立的な仕組みが不可欠ではないか。復興まちづくりを説く。	(有)クッド研究所	学芸出版社	2013/1/15
449	まちづくり 季刊38 1304	今号の特集は、「里山と地域づくり」として、高齢化が進む山村では里山が荒れ始めている現状を、里山空間の保全や里山づくりの事例挙げて紹介している。地域社会と自然との長年の交流によって培われた資産である里山を、環境保全にまちづくりの考え方を加えた対策で考えていく必要性を説いている。	(有)クッド研究所	学芸出版社	2013/4/15

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
452	まちづくり 季刊39 1307	特集では、「復興まちづくり～3年目の課題～」として、被災地に多くのまちづくりの専門家が訪れ、本格的な復興まちづくりの内容を紹介しているのと同時に、直面している課題も取り上げられています。	(有)クッド研究所	学芸出版社	2013/7/15
453	まちづくり 季刊40 1310	今号特集では、地区まちづくり再考と題して、各地域の従来を振り返り、今後の方向性について書かれている。また、群馬県板倉町における重要文化的景観の事例も掲載されています。	(有)クッド研究所	学芸出版社	2013/10/15
454	よくわかる観光学1 観光経営学	現代社会において、観光は重要な成長分野である。観光には、地域の持続的な発展や内発的な発展を担う産業としての重要な役割も期待されている。このような観光の新しい事態や役割に対処するための教科書が求められている。本シリーズは、その大きな意義を観光学を学ぶ学生、及び観光に関連する実務者を主な読者対象に、わかりやすさに配慮した観光の教科書シリーズである。	朝倉書店	岡本伸之編著	2013/10/15
455	カゼイロノハナ 未来への対話 アーツ前橋 空色の本と風色の本	この本は『風色の本』と『空色の本』の2つの冊子によって構成されています。風色の本では、アーツ前橋開館記念展「カゼイロノハナ 未来への対話」で展示されている作品や作家のことが詳しく書かれています。空色の本では記念展の図録や施設の紹介などの概要説明となっています。本の中から芸術を感じられます。	アーツ前橋	美術出版社	2013/10/25
456	前橋市における美術館構想 プレイベントの記録	この冊子は、「アーツ前橋」の準備の為にに行った事業を紹介しています。プレイベントとして、ワークショップや展覧会、アートスクールなどを行いました。このような事業を実施することにより、市の方々に知ってもらいたいという思いが込められています。写真も多数掲載されていますので、是非ご覧下さい。	アーツ前橋	アーツ前橋	2013/3/31
457	まちづくり 季刊41 1401	都市は今、どのような現状に直面しているのか？今号では二つの企画を連携して、都市の問題を取り上げています。特集「欧米の最新都市デザイン」では、ニューヨーク、マルセイユ、ロンドンなど、欧米6都市における最近の取組についてが書かれています。特別企画「東京の都市再生を歩く」では「都市再生」の結果、街にどのような変化が生まれているかについて、報告しています。	(有)クッド研究所	学芸出版社	2014/1/15
458	中央公論12 壊死する地方都市	20～39歳の女性が今の半分しかいなくなったら、生まれる子供の数がとてつもなく減るのは当然だろう。地方の小さな町を皮切りに女性と子どもの姿が消えていき、30年後には老人すらいなくなる。地域の社会経済や住民の生存基盤を壊すその波は、やがて大都市をも呑み込んでいく。特集では、壊死する地方都市と題して様々な視点から書かれています。	編集長：木佐貫治 発行人：小林敬和 編集：吉田大作、安部七重、中西恵子、杉本健太郎、池田禎子	中央公論新社	2013/11/10

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
459	中心市街地活性化のツボ 寄贈	まちづくりの先進事例に学ぶのは難しい。形をまねるだけなら簡単だが、それでは意味がない。そこに込められた想い、理屈、知恵と工夫、予期せぬ展開など、隠れた部分に成功の秘訣がある。本書では、全国の事例を求めながら、その「隠れた成功の秘訣」を「七つのツボ」に整理しています。本書からその秘訣をかぎ取って欲しいと思います。	長坂泰之	学芸出版社	2012/3/20
460	まちの見方・調べ方 地域づくりのための調査法入門 寄贈	本書は、地域づくりに関係する人々や地域づくりに関心のある方々に向けて、「地域づくりのためには、自分たちの住むまちやむらをもどくようにとらえたいのか」に関して、その方法を入門的に解説したものである。ここでいう地域づくりとは、まちづくりやむらづくり、島おこしなどを幅広く包含する表現である。自分たちの住まいの環境に関心を有する方に幅広く向けて発信された地域調査法入門書である。	西村幸夫・野澤康・中島直人・遠藤新・野原卓・窪田亜矢・桑田仁・鳥海基樹	朝倉書店	2010/10/20
461	RePUBLIC 公共空間のリノベーション 寄贈	この本は、理論と実践とアイデアの3つから構成されています。理論では、この本の問題意識を述べており、実践では様々な事例を見渡し、公共空間をリノベーションしている事例と著者であるOpenAが手がけてきた事例を述べている。アイデアではすぐにも実現出来そうな、でもありそうでない空間のアイデアが描かれています。	馬場正尊、OpenA	学芸出版社	2013/9/15
462	まちづくり: デッドライン(生きる場所を守り抜くための教科書) 寄贈	本書の題名にあるデッドラインとは、「最後の限界線」を意味する。今、「まちづくり」に取り組むのであれば、2つの危機的な限界線を意識しなければならないと考えている。1つは時間的な意味、もう1つは空間的な意味でのデッドライン。この2つの面から本書では、デッドラインという言葉をもとに、まちづくりにおける「最終防衛ライン」というニュアンスで書かれています。	木下斉、広瀬郁	日経BP社	2013/4/8
463	まちづくりの「経営力」養成講座 寄贈	まちを1つの会社として認識し、“経営”の視点から課題を見つけ、目標に向かって取り組む事業としてまちづくりをとらえると、見える世界が変わる。本書が、1つでも多くの事業的に取り組むまちづくりが生まれるヒントになれば幸いです。	木下斉	学陽書房	2013/6/14
464	サードプレイス コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」 寄贈	全編を通じ、著者がサードプレイスに向ける期待は揺るぎない。そこには長年「とびきり居心地よい場所」に親しみ観察してきた者の実感と、「コミュニティの問題は住民の力で解決できる」という市民魂がみなぎっている。店舗設計、都市計画、マーケティング、地域社会づくりの分野に刺激を与えつづけてきた書の待望の邦訳。	レイ・オルデンバーグ 忠平美幸訳 / マイク・モラスキー 解説	みすず書房	2013/10/25

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
465	コンバージョン、SOHOによる地域再生 寄贈	本書が刊行されることとなった契機は、2004年2月に横浜で開催されたフォーラム「地域再生の実践—コンバージョン、SOHOをツールとして」である。そのフォーラムでは千代田区SOHOまちづくり構想関係者と船場デジタルタウン構想関係者さらに横浜関内地区コンバージョン研究会関係者が集まり、コンバージョンとSOHOをツールとした地域再生をテーマに議論した。本書は、このフォーラムに参加した人々を中心に原稿を執筆を依頼し、刊行したものである。	小林重敬編著 谷口康彦、小藤田正夫、小長谷一之、長坂俊成、根本祐二、佐々木龍郎他著	学芸出版社	2005/12/30
466	吉祥寺スタイル 楽しい街の50の秘密 寄贈	吉祥寺をモデルケースに、心地よい「居場所」のスタイルを考える—。本書は単なる都市論の本ではない。吉祥寺を考えることを通じて、人間にとって好ましい生活とは何かを考えている。だから、都市や住宅について関心がある人だけでなく、家族、子育て、学校、会社組織など、人間がよろこんで暮らしたり、働いたりする場所について考えている人すべてに読んで欲しい。	三浦展、渡和由研究室	文藝春秋	2007/4/25
467	まちづくり 季刊42 1404	“季刊まちづくり”はまち(地域)が連携し、主体的に企画・計画して、コミュニティを維持・発展させながら、事業活動を展開する地域マネジメントを柱としています。今回の特集は、復興住宅とコミュニティと題して、復興の現状と課題を住環境の視点からかかれています。	(有)クッド研究所	学芸出版社	2014/4/15
468	前橋市における美術館構想 プレイベントの記録 寄贈	この冊子は、「アーツ前橋」の準備の為にに行った事業を紹介しています。プレイベントとして、ワークショップや展覧会、アーツスクールなどを行いました。このような事業を実施することにより、市の方々に知ってもらいたいという想いが込められています。写真も多数掲載されていますので、是非ご覧下さい。	アーツ前橋	アーツ前橋	2013/3/31
470	ありふれたまちかど図鑑—住宅地から考えるコンパクトなまちづくり	中心市街地の衰退、郊外の乱開発、増大する交通環境負荷、減少する人口と高齢化・・・。「ありふれた」まちかどが示す「これからの」まちのありかた。日本の「まち」約2,000住区の膨大なデータ・画像を収集し、129種類のタイプに整理・収録。	谷口守、松中亮治、中道久美子	技報堂出版	2007/3/30
471	景観法と地域政策を考える 寄贈	『地域の景観を守ることは住民、自治体、専門家の協同作業である』研究者と実務家が協力し、景観法とその関連法規、地域政策との関連性について解説しています。	高崎経済大学 地域政策研究センター[編]	勁草書房	2014/3/31
472	地方消滅	このままでは896の自治体が消滅しかねない—。減少を続ける若年女性人口の予測から導き出された衝撃のデータである。若者が子育て環境の悪い東京圏へ移動し続けた結果、日本は人口減少社会に突入した。多くの地方では、すでに高齢者すら減り始め、大都市では高齢者が激増してゆく。豊富なデータをもとに日本の未来図を描き出し、地方に人々がとどまり、希望通りに子どもを持てる社会へ変わるための戦略を考える。	増田寛也／編著	中公新書	2014/8/25

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
473	白熱講義 これからの日本に都市計画は必要ですか	日本の都市計画は何をしてきたのですか？近代都市計画とは何だったのですか？3.11で何が変わるのですか？今、私たちが引き受ける課題は何ですか？1930年代生まれのベテラン都市プランナーへ、1970年代生まれの若手が投げかける、差し迫った問いと議論の応酬。都市計画の現実、矛盾と展望を明らかにした現役世代に訴える一冊です。	蓑原敬・饗庭伸・埴浦道生・中島直人・野澤千絵・日埜直彦・藤村龍至・村上暁信 著	学芸出版社	2014/6/1
474	平成26年度版 都市再生整備計画事業 ハンドブック	都市再生整備計画事業(旧まちづくり交付金)についての手引きです。	国土交通省 都市局 市街地整備課	一般社団法人 都市みらい推進機構	2014/12/1
475	限界集落株式会社	過疎・高齢化・雇用問題など日本に山積する問題を一掃する逆転満塁ホームランの地域活性エンターテインメントです。	黒野伸一	小学館	2013/10/13
476	コンパクトシティ実現のための都市計画制度 —平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説—	新たな都市計画制度について、 制定の背景から具体的な事業の進め方まで徹底解説！	(編集) 都市計画法研究会	ぎょうせい	2014/11/10
477	『国土のグランドデザイン2050』が描くこの未来	2050年には、現在の居住地域の2割で人がいなくなる。未来を切り拓いていくための国土づくりの理念・考え方を示す「国土のグランドデザイン2050」を具体的な事例やデータを織り交ぜながら、わかりやすく解説！	(編著) 国土交通省国土政策研究会	大成出版社	2014/12/28
478	モビリティ・マネジメントの手引き —自動車と公共交通の「かしこい」使い方を考えるための交通施策—	渋滞や環境、土地利用等の様々な都市・交通問題は、一人一人が「過度に自動車に依存する習慣」から「自動車や公共交通をかしこく利用する生活」へと少しずつ変容していくことで抜本的に改善することが期待できます。モビリティ・マネジメント(MM)はこの認識の下、人々の意識や行動の自発的変化を期待し、人々に大規模かつ個別的に働きかけるコミュニケーションを主体とした交通政策です。本書はMMの具体的実践を想定した手引き書であり、基本的な考え方・留意点から具体的手続きやツールなどの詳細等に至るまで丁寧に解説しています。	(編集) 土木計画学研究委員会 土木計画のための 態度・行動変容研究小委員会	土木学会	2005/5/10
479	ほしい暮らしは自分でつくる ぼくらのリノベーションまちづくり	空き家だらけのまちを元気に！これからの時代の「新しいまちづくり」実践の記録。「ほしい暮らしは自分でつくる」を合言葉に著者が続けてきた、新しいまちづくりの方法。これまでの20世紀型発想によるまちや建築ではなく、これからの日本に必要なまちと建物の使い方、そこでの働き方や暮らし方、お金のもらい方、それらを生み出す方法。それが、「リノベーションまちづくり」です。	らいおん建築事務所 嶋田洋平	日経BP社	2015/6/1
480	限界集落の真実 —過疎の村は消えるか？	消滅しそうな集落などいったどこにあるのか？ 「限界集落はどれも消滅寸前」は嘘である。危機を煽り立てるだけの報道や、カネによる解決に終始する政府の過疎対策の誤りを正し、真の地域再生とは何かを考える。	山下 祐介	筑摩書房	2012/1/5

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
481	空き家問題 —1000万戸の衝撃	空き家が浮き彫りにする、日本の姿。 地方も 都会も空(から)っぽの家ばかり！2030年、人口は今より1000万人減！2040年、10軒に4軒が空き家に！ 空き家問題の根本にあるのは、日本の都市発展の歴史そのものであり、戦後の日本が行き着いた末の姿である。今後、家は、コストばかりがかかる、無用で厄介なものになる危険が大きく、空き家は重大な社会問題として認識されていこう。	牧野知弘	祥伝社	2014/7/10
482	太子堂・住民参加のまちづくり 暮らしがあるからまちなのだ！	30余年、ワークショップやまち歩き、協議会方式など参加型まちづくりの最先端を切り開いてきた世田谷区太子堂の地元リーダーによる書き下ろし。今なお続くトッパダウン、ハード先行の大規模整備と比べ、早く、安く安全性を高め、コミュニティの絆も強めてきた太子堂の経験と、そこから生まれた思想を伝える渾身の一冊。	梅津政之輔	学芸出版社	2015/2/15
483	持続可能な高齢社会を考える 官民の「選択と集中」を踏まえた対応	高齢社会への対応のためにはニーズの把握と限られた資源内での選択と集中が必要になる。本書では官民の役割分担や諸外国の対応にも触れ、研究者と実務家が対応策を論じた。	貝塚 啓明 財務省財務総合政策研究所	中央経済社	2014/11/20
484	都市の記憶を失う前に 建築保存 待ったなし！	全国各地の歴史的・文化的に高い価値をもつ建物が、ひとつ、またひとつと薄っぺらで画一的な建物に建て替えられています。どうしたら人々の記憶が埋め込まれた街の姿を守り、貴重な建築遺産を後生に伝えていけるのか？ 東京駅復元プロジェクトもいよいよ始まり、市民の関心も高まるなか、諸外国の実態、地震国＝日本での方策、歴史的建造物保存にかかるコストなど、この問題に初めて多角的・具体的な提言を行います。	後藤治 +オフィスビル総合研究所	白揚社	2014/5/30
485	それでも、「木密」に住み続けたい！ 路地裏で安全に暮らすための防災まちづくりの極意	防災面では特に課題が多いと指摘される木造密集市街地、いわゆる「木密」は、その一方で、木密ならではの懐かしい風情と親しい近所付き合いがある。木密の長所を生かした木密再生の処方箋を紹介。	後藤治・関澤愛・三浦卓也・村上正浩	彰国社	2009/10/10
486	モビリティをマネジメントする コミュニケーションによる交通戦略	モビリティ(交通)についての問題を解く鍵はいつも、人々の「気持ち」や「意識」にあります。そんな基本に立ち返り、モビリティ(交通)を少しずつ改善(マネジメント)するのがモビリティ・マネジメント(MM)です。色々な「成功例」を紹介することを通して、初めての人にも分かりやすく、その考え方や始め方、進め方、そしてその手法をとりまとめたMMの入門書です。	藤井聡、谷口綾子、松村暢彦 編著	学芸出版社	2015/8/1
487	「地方創生」でまちは活性化する	地方の人口減少を防ぎ、地方を活性化するために「地方創生」(まち・ひと・しごと)の政策が進められている。本書では、地方創生をどう進めるか(シティマネージャー派遣制度など)ということ意識しながら、地方の商店街、企業の活性化事例などを取り上げ、「地方創生」の道筋を探る。また海外の地域活性化事例も取り上げる。	小林勇治 波形克彦 編著	同友館	2015/6/15

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
488	まちづくり学への招待 どのようにして未来をつくっていくか	「まちづくり」という言葉を耳にしたことがあっても、それが具体的にどういふことなのか、またどのような人たちがまちづくりに関わっているのかよくわからないという人も多し。本書は、「まちづくり」という活動を知ることを目的としています。	株式会社オオバ技術本部	東洋経済新報社	2015/5/28
489	都市をたたむ 人口減少時代をデザインする都市計画	人口減少社会において都市空間はどう変化していくか—縮小する時代のための都市計画を提起 フィールドワークでの実践を踏まえて縮小する都市の“ポジティブな未来”を考察 気鋭の都市計画研究者が問う新時代の都市論	饗庭 伸	花伝社	2016/1/25
490	地方都市を考える 「消費社会」の先端から	日本の人口の4割が暮らす地方都市。ショッピングモール、空き家、ロードサイド、「まちづくり」…。東北のある中都市を舞台に、この国の未来を先取りする地方都市の来し方行く末を考える。	貞包 英之	花伝社	2015/10/10
491	ポートランド —世界で一番住みたい街をつくる	この10年全米で一番住みたい都市に選ばれ続け、毎週数百人が移住してくるポートランド。コンパクトな街、サステイナブルな交通、クリエイティブな経済開発、人々が街に関わるしくみなど、才能が集まり賢く成長する街のつくり方を、市開発局に勤務する著者が解説。アクティビストたちのメイキング・オブ・ポートランド。	山崎 満広	学芸出版社	2016/5/25
492	フットパスによるまちづくり 地域の小径を楽しみながら歩く	フットパスとは楽しみながら歩くこと[Foot]ができる緑の散歩道[Pash]のことです。 その経済効果は、観光面だけでなく、都市部や地方集落などの環境保全、防災のための整備等において、簡単にそして早く効果が見える施策としてフットパスに取り組む団体が増えています。 本書は、「フットパス」の意義と「フットパス」を利用したまちづくりの代表的な成功例を日本全国の事例から紹介し、新しいかたちの地域とまちづくりを提言する1冊です。	神谷由紀子	水曜社	2014/5/29
493	まちづくりの哲学 都市計画が語らなかつた「場所」と「世界」	まちづくりを問うことは、私たちがなぜ生きているかを問うことだ。なぜなら、まちは「世界は生きるに値するか？」という問いの参照先だからだ。 私たちは幸福になれないことが約束されているにもかかわらず、なぜ明日もう一日生きてみようとするのか？私たちはただ一つの生きる動機付けである希望をまちから与えられることのでかろうじて生きていける。まちづくりとは、その希望を場所に刻印することなのだ。	代官山ステキなまちづくり協議会 養原 敬 宮台 真司	ミネルヴァ書房	2016/6/30
494	老いる家 崩れる街 住宅過剰社会の末路	人口は減少するのに、都心では超高層マンションが林立、郊外では住宅建築が相次ぐ日本。住宅の「量」、住宅や住環境の質としての「古い」、新築住宅の「立地」の観点から、住宅過剰社会が抱える構造的な問題を明らかにする。	野澤 千絵	講談社現代新書	2016/11/20

寄贈

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
495	群馬から発信する交通・まちづくり <div style="text-align: right;">寄贈</div>	前橋工科大学地域・交通計画研究室が、群馬県内や前橋市を主な対象地域として実証的な「まちづくり」の研究成果をまとめた学術書。「公共交通」、「公園」、「世界遺産」、「防災」、「市町村合併」などによる様々な「まちづくり」を取り上げ、従来の行政指導型から市民主導型へ移行すべきだと提言している。	湯沢 昭 森田 哲夫 編著 塚田伸也 西尾敏和 橋本隆 目黒力 著	上毛新聞社	2017/3/18
496	まちづくりの仕事ガイドブック まちの未来をつくる63の働き方	まちづくりに関わりたい人、本気で仕事にしたい人必見！デザイナー、ディベロッパー、コンサル、公務員まで44職種を5分野「コミュニティと起こすプロジェクト」「設計・デザイン」「土地・建物のビジネス」「調査・計画」「制度と支援のしくみづくり」の実践者が紹介。14人の起業体験談からは進化する仕事の今が見えてくる。	饗庭伸 小泉瑛一 山崎亮	学芸出版社	2016/9/5
497	町の未来をこの手でつくる 紫波町オガールプロジェクト	駅前空き地が 広場と図書館に!? 人口3万人の小さな町が生まれ変わった。補助金に、頼らない公民連携によるまちづくりの全貌。高齢化・過疎化・財政難に直面する岩手県紫波町(しわちょう)は、今や県内第2位の地価上昇率を記録し、駅前エリアには年間 90万人以上が訪れる。行政と民間が連携して進めるまちづくりとは どのように実現したのか。その10年間の軌跡を追う。	猪谷 千香	幻冬舎	2016/9/25
498	地域再生の戦略 —「交通まちづくり」というアプローチ	これまで地域を再生するために様々な施策が取り組まれてきた。地方では自動車利用を優先した都市計画により、中心市街地の空洞化、路線バスの廃止が進み、衰退は加速した。この悪循環を止め、地方を復活させる鍵は、鉄道・バスといった「公共交通」の見直しである。そこからコンパクトな街が再生される。日本でも注目を集める「交通まちづくり」というアプローチを紹介し、本当の地方創生の方法を提案する。	宇都宮 浄人	ちくま新書	2015/6/10
499	森林景観づくり —その考え方と実践—	“魅力的な森林景観”を創出するためには、どうすればよいのでしょうか。その考え方と具体的な手法をわかりやすく説明しているのが本書です。“森林景観づくり”により国民に魅力的な森林景観づくりの手法を解説した初めての本。500枚以上の写真で森林景観整備の内容がよくわかる！	堀 繁(監修) 由田 幸雄(著)	日本林業調査会	2017/2/6
500	コンパクトシティ実践ガイド 医療・福祉・子育て連携！ <div style="text-align: right;">寄贈</div>	少子・高齢化が問題視されている今、高齢者、子育て世帯が暮らしやすいまちをつくるためには、自治体の福祉部門と都市計画部門の連携が必須となってくる。本書では、実際にコンパクトシティに着手している先駆的な自治体の事例を、医療・介護施設、子育て支援施設など、各施設に分類し、施策との連携ポイントについてわかりやすく詳解している。	コンパクトシティ研究会／編	ぎょうせい	2017/3/10

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
501	高さ制限とまちづくり	建物の高さは都市のあり方に大きく影響するが、その規制は緩く各地で紛争が続いている。そのため強制力のある高さ制限(高度地区)の指定が増える一方、高さの目安を示す景観計画の活用も広がってきた。 本書は、高さ制限の歴史的経緯と上記2手法の運用実態を示し、都市の価値を高めるための高さ制限の手引きとしてまとめた。	大澤 昭彦	学芸出版社	2014/2/28
502	住宅地のマネジメント 寄贈	住宅地を運営し、その価値を守り、住み良い環境を育む。そこには住民たちの多様なまちづくり活動が欠かせない。町内会や自治会から、管理組合、協定委員会、NPO…、さまざまな組織形態が生まれている。「まちネット」は、先進的なまちづくりに取り組む住民組織のネットワーク。そこでは、どのようなルールの下、管理運営がなされているのであろうか。 日頃の身近な活動から、将来を見据えた計画づくりまで、具体的な取り組みから学ぶ問題解決の知恵をまとめる。	大月敏雄+東京大学建築計画研究室(著) 住宅生産振興財団(監修)	建築資料研究社	2018/6/21
503	老いた家 衰えぬ街 住まいを終活する	大死亡時代の到来とともに、注目され続ける「空き家問題」。2033年には3戸に1戸が空き家となる。これからの日本では、「住まいの終活」が最重要課題となってくるのだ。あなたが空き家を抱えた時、どうすればよいのか？あなたの子どもに自分の住まいについて、何をどう伝えておけばよいのか？特別付録「書き込み式 住まいのエンディングノート」に書き込みながら、あなたの住まいについて考えてみよう。	野澤 千絵	講談社現代新書	2018/12/19
504	地元がヤバイ…と思ったら読む 凡人のための地域再生入門	地方衰退の「構造」とビジネスによる「変革手法」がストーリーで一気にかかる！！札幌・盛岡・女川・山形・熱海・春日井・城崎・岡山・小倉・長崎・熊本・宮崎・鹿児島…全国各地で400名以上の「未経験者」が実践したノウハウを大公開！	木下 斉	ダイヤモンド社	2018/11/14
505	空き家問題の背景と対策 寄贈	全国的に深刻化している空き家問題に焦点を当てその構造、背景と対策を様々な研究領域から多面的に分析するとともに、空き家の有効活用の取り組みを紹介、今後を展望する。	高崎経済大学地域科学研究所	日本経済評論社	2019/3/15
506	機関誌 都市とガバナンス 第31号 寄贈	講演録、シリーズ:まちづくりの新展開、テーマ:都市自治体とツーリズム政策都市自治体の調査研究活動 他	(公益財団法人)日本都市センター	(公益財団法人)日本都市センター	2019/3/15
507	ネクストステージの都市税財政にむけて 寄贈	～超高齢・人口減少時代の地域社会を担う都市自治体の提言と国際的視点～	(公益財団法人)日本都市センター	(公益財団法人)日本都市センター	2019/3/1
508	自治体による「ごみ屋敷」対策 寄贈	一福祉と法務課からのアプローチ	(公益財団法人)日本都市センター	(公益財団法人)日本都市センター	2019/3/1
509	住民がつくる「おしゃれなまち」 寄贈	一近郊都市におけるしびっくぶらいどの醸成一	(公益財団法人)日本都市センター	(公益財団法人)日本都市センター	2019/3/1
510	AIが変える都市自治体の未来	一AI-Readyな都市の実現に向けて一	(公益財団法人)日本都市センター	(公益財団法人)日本都市センター	2019/3/1

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
511	都市自治体におけるガバナンスに関する調査研究 寄贈	—第6次市役所事務機構研究会 中間報告書—	(公益財団法人)日本都市センター	(公益財団法人)日本都市センター	2019/3/1
512	都市の未来を語る市長の会（2018年度後期） 寄贈	憲法改正論議と都市自治体	(公益財団法人)日本都市センター	(公益財団法人)日本都市センター	2019/3/1
513	モビリティ政策による持続可能なまちづくり 寄贈	LRTなどの基幹的は公共交通機関の整備を中心とした地域の交通体系の再編、総合的なモビリティ政策に取り組んでいる事例、その成果や課題の討議、持続可能なまちづくりのあり方についての基調講演などが詳解されている。	(公益財団法人)日本都市センター	(公益財団法人)日本都市センター	2019/3/1
514	公共R不動産のプロジェクトスタディ 公民連携のしくみとデザイン	公共空間の活用が加速している。規制緩和が進み、使い方の可能性がひろがり、行政と民間の連携も進化。公共空間をもっと楽しく！国内外の実践ガイド	馬場正尊 他著 公共R不動産 編	学芸出版社	2018/6/8
515	福祉転用による建築・地域のリノベーション 成功事例で読み解く企画・設計・運営	福祉転用の効果的な進め方を示し、建築設計のビジネスチャンスを広げる本。プロセスを企画・構想から計画・設計・運営の10段階に分けて整理。国内の成功事例から成功のための工夫を読み解く。さらに必要となる技術・制度、地域との関わり方をまとめ、海外での考え方も紹介している。	森一彦他著	学芸出版社	2018/3/17
516	まちを再生する 公共デザイン インフラ・景観・地域戦略をつなぐ思考と実践	公共事業を軸とした地域再生に戦略やデザインをいかに導入するか。事業や分野を横断し、人とインフラを繋ぎなおす空間デザインと、菌実現に向けたマネジメントの方法や行政の役割を多角に詳解。最前線の方法論や実践事例から、新たな公共デザインへの枠組みを導き出す。社会資本整備の再構築に向けた現場からの提言。	山口敬太 福島秀哉 西村亮彦 編著 長谷川浩己 他著	学芸出版社	2019/6/7
517	民間主導・行政支援の公民連携の教科書	人を幸せにする「本当の公民連携事業」とは？ 公と民の新しい関係で切り開く地域再生手法	清水義次、 岡崎正信 泉 英明、 馬場正尊	日経BP社	2019/1/11
518	公園のグッドプラクティス 新しい公園経営に向けて	“使える”公園—ユニバーサルデザインから公園経営へ 公園を不良資産にしない。使う、使い倒す。公園はみんなのもの。大きな公園はもっと魅力がほしい。美味しいものも食べたい いろんなアクティビティがほしい。小さな公園はいつも集う人が 思いのまま使う。みんなが良ければそれで正解。でも、ちょっと 待って…	公園のユニバーサル デザイン研究 チーム 著	鹿島出版会	2018/11/10
519	これからの都市ソフト戦略	歩ける範囲でつくるコンパクトシティで街はよみがえる！寂れた まちにひとと活気が戻る、400メートルですべてがそろう、暮らし やすく魅力的なまちのつくり方をいろいろな角度から解説。	藤後幸生	角川書店	2019/7/26

おもしろまちうちライブラリー【蔵書一覧】

2023年7月更新

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
520	ひらかれる建築 ―「民主化」の作法	人々がすでにある建物をより幸せでより豊かな暮らしの場に仕立て上げる活動、それは近代社会が蓄積してきた技術と建築のストックを、自分たちの志向する生活に合わせて、編集しはじめたのではないか・・・	松下秀一	筑摩書房	2016/10/10
521	空き家を活かす 空間資源大国ニッポンの知恵	高度経済成長期バドに社会全体で共有されていた大きな物語から人それぞれの生き方やまちそれぞれの暮らしと結び付いた小さな物語へ、日本には、空間資源大国だからこそ持ち得る希望がある。	松下秀一	朝日新聞出版	2018/11/30
522	まちの価値を高めるエリアマネジメント	公民連携の仕組み！どうすればできるのか？誰が中心となって、どんな活動をしているのか。どうして街路等の公共空間を使って活動できるのか。地域の組織と行政の役割分担は？種々の疑問に答える優しい手引き	小林重敬+森記念財団 編著	学芸出版社	2018/6/25
523	リノベーションまちづくり	不動産事業でまちを再生する方法―従来の補助金頼みの活性化ではない、経営の視点からのエリア再生の全貌を初めて明らかにする。	清水義次	学芸出版社	2014/9/1
524	都市を変える水辺アクション 実践ガイド	都市における川は都市の健康状態が表れる部分ではないだろうか。市民自らが使いこなし愛着をもてば、いきいきした風景が表れ、都市のイメージを左右するくらいの効果が生まれる場所だと思う。水辺から都市へ、楽しみながら動いていこう！	泉 英明、 嘉名光市、 武田重昭 編著 橋爪紳也 監修	学芸出版社	2015/10/7
525	地方創生大全	まちを救いたい動きだそう。5つの視点(ネタ、モノ、ヒト、カネ、組織)で地方は劇的におもしろくなる！	木下斉	東洋経済	2016/10/7
526	草津温泉 再興の記録 2010-2017	平成22年度から実施してきましたまちづくり事業により、わずか5年でバブル期を凌ぎ、今では年間の入込客数も320万人を超え、温泉街にはお客様の笑顔や歓声が溢れ、賑わいや活気が戻り、町のあちこちで行列ができる温泉街へと再興した。このまちづくりによる再興の歴史を後世に残していくために、「草津温泉再興の記録」として文書化を行う。	北山創造研究所	草津町	2017/5/1
527	人口減少時代の都市行政機構 寄贈	第6次市役所事務機構研究会報告書	(公益財団法人)日本都市センター	(公益財団法人)日本都市センター	2020/3/1
528	ネクストステージの総合計画に向けて 寄贈	縮小都市の健康と空間	(公益財団法人)日本都市センター	(公益財団法人)日本都市センター	2020/3/1
529	都市自治体における専門人材の確保・育成 寄贈	土木・建築、都市計画、情報	(公益財団法人)日本都市センター	(公益財団法人)日本都市センター	2020/3/1
530	ブックレット 文化芸術ガパナンスと公民連携 寄贈	第21回都市経営セミナー	(公益財団法人)日本都市センター	(公益財団法人)日本都市センター	2020/3/1

おもしろまちうちライブラリー【蔵書一覧】

2023年7月更新

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
531	都市の未来を語る市長の会(2019年度) 寄贈	・交通弱者対策 (住民の移動手段の確保) ・SDGsへの取組み	(公益財団法人)日本都市センター	(公益財団法人)日本都市センター	2020/3/1
532	コミュニティの人材確保と育成 寄贈	協働を通じた持続可能な地域社会	(公益財団法人)日本都市センター	(公益財団法人)日本都市センター	2020/3/1
533	次世代モビリティ社会を見据えた都市・交通政策 寄贈	欧州の統合的公共交通システムと都市デザイン	(公益財団法人)日本都市センター	(公益財団法人)日本都市センター	2020/3/1
534	機関誌 都市とガバナンス 第33号 寄贈	巻頭論文:自治体議会の災害対応—役割期待と限界— シリーズ:新たな公共私連携～スポーツを通じたまちづくり～ テーマ:都市連合組織のシンクタンク機能	(公益財団法人)日本都市センター	(公益財団法人)日本都市センター	2020/3/15
535	マーケットでまちを変える:人が集まる公共空間のつくり方	・マーケットによるまちづくり ・中心市街地活性化 ・公共空間活用	鈴木美央	学芸出版社	2018/6/10
536	景観計画の実践:事例から見た効果的な運用のポイント	・美しいまちづくり ・景観計画運用の実態・問題点	日本建築学会	森北出版	2017/3/31
537	持続可能な地域のつくり方—未来を育む「人と経済の生態系」のデザイン	・SDGs(持続可能な開発目標) ・地域再生	寛裕介	英治出版	2019/5/10
538	古民家への道	・古民家再生	松井郁夫	ウエルパイン書店	2019/10/31
539	三宅島学 寄贈	・三宅島観光白書 観光による地域づくりに興味・関心のある方、離島への移住や二地域住居を考えている方に、新しい生活様式の中で新しい生活スタイルを考えるきっかけを提案	大下 茂 大森 哲至	ミライカナイ	2020/9/1
540	私が知りたい三宅島観光 みんなに知ってほしい三宅島観光 寄贈	・三宅島観光副読本 地域の小学生を対象とした郷土教育のための小冊子 シビックプライド向上を目指す	大下 茂 大森 哲至	Glocal Design	2021/2/1
541	ストリートデザインガイドブック 居心地が良く歩きたくなる街路づくりの参考書	まちなかの徒歩圏の範囲を対象に、ストリートデザインに携わる方々への事例集	国土交通省 都市局・道路局	国土交通省	2021/5/1
542	都市計画の構造転換 整・開・保からのマネジメント 寄贈	都市計画法制定から50年が過ぎ、その役割と課題、今後を考える	日本都市計画学会	鹿島出版会	2021/4/15

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
543	まちづくり幻想 地域再生はなぜこれほど失敗するのか	統計と400の実践例をもとに明かす真実 地方を蝕む横並び構造に迫る	木下 斉	SB新書	2012/3/15
544	後悔しない「親の家」片付け入門 カツオが磯野家を片付ける日	誰もが直面する可能性のある実家の片付け そこから空き家問題、少子化問題などを考える1冊	渡部 亜矢	SB新書	2016/4/15
545	平成都市計画史 転換期の30年間が残したもの・受け継ぐもの	平成という30年間をふりかえり、都市計画の使い方を少しでも 明らかにしたいことを語る	饗庭 伸	花伝社	2021/4/15
546	アフターコロナの都市計画 変化に対応するための地域主導型改革	コロナ禍で人々の働き方、暮らし型が大きく変わりつつある今、 職住が融合し、コンパクトな暮らしを楽しめる地方都市を目指す ための分権改革を提言	石井 良一	学芸出版社	2021/4/20
547	公募要項作成ガイドブック(民間貸付型) クリエイティブな公民連携事業のための公 共発注	クリエイティブな公共発注を必要として、現場で悶々としている 自治体担当者を読者として想定 多分野・多業種に渡る民間事業者でもフラットに参加しやすくなる 公募を目指します	PPP妄想研究会 公共R不動産	(株)OpenA 公共R不動産	2021/5/1
548	居心地が良く歩きたくなるグランドレベルデ ザイン 事例から学ぶその要素とポイント	「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの実現に向けて、「グランド レベル※」のあり方に関する基本的な考え方を整理するとともに、 グランドデザインの観点から優れた事例をとりまとめまし た。 ※街路、公園、広場、民間空地、沿道建物の低層部等、まちな かにおいて歩行者の目線に入る範囲	国土交通省 都市局 まちづくり推進課	国土交通省	2021/6/1
549	第73回都市計画全国大会報告書	令和3年10月28日(木)Gメッセ群馬(高崎市)をオペレーショ ン会場として初めてオンラインで開催された、第73回都市計画 全国大会の報告書です。	(公財)都市計画協 会 国土交通省 群馬県・高崎市・ 群馬県都市計画協 会		2022/10/28
550	復興まちづくりの伝承	東日本大震災直後からの宮城県及び宮城県内沿岸被災市町 の復興まちづくりへの取り組みを記録として取りまとめました。	宮城県土木部都市 計画課		2022/3/1
551	基礎から学ぶインフラ講座	本書は河川、道路、港湾、都市公園、下水道の各事業につい て、管理区分、事業制度、技術的基準などについて、出典を含 めて基礎から学ぶことができます。また、分野横断的なものとし て入札契約制度の概要や趣旨についても掲載しています。	大石 久和	全日本建設技術協 会	2022/3/1
552	ソーシャルX 企業と自治体でつくる「楽しい仕事」	企業との共創で “お役所仕事” がクリエイティブに。「パーパス 経営」「ESG経営」時代に欠かせない「社会課題の解決」を、ソー シャル・エックスが手掛けた事例でわかりやすく解説！	伊藤 大貴 伊佐治 幸泰 榎野 憲克	日経BP	2022/4/28

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
553	ネイバーフッドデザイン まちを楽しみ、助け合う「暮らしのコミュニティ」のつくりかた	近くに暮らす人たちの関係性を育むことで、まちの課題を解決する。都市部におけるコミュニティ開発の新たな思想とメソッドを、実践例を交えて紹介。まちづくりや都市開発、エリアマネジメント、団地再生に携わる人はもちろん、自治会や商店会、マンション管理組合の関係者、そして自分の住むまちを良くしたいすべての人のための一冊。	荒 昌史 HITOTOWA INC.	英治出版	2022/4/21
554	タクティカル・アーバニズム 小さなアクションから都市を大きく変える	小さなアクションが制度を変え、手法として普及し、社会に定着するアプローチを具体的に解説。アメリカと日本の多数の実践を紹介。	泉山 壘威 田村 康一郎 他27名	学芸出版社	2021/6/9
555	自治体の都市計画担当になったら読む本	自治体の都市計画担当に配属された職員に向けて、実務に役立つ知識とノウハウを集約！ 複雑な制度を豊富な図表を交えてわかりやすく解説し、担当者が留意すべきポイントを実体験をふまえて詳解。 事務職・技術職を問わず有用な心得・仕事術も満載の1冊。	橋本 隆	学陽書房	2022/4/15
556	図解 パブリックスペースのつくり方 設計プロセス・ディテール・使いこなし	場づくりの仕組みを活かしつつ関係者の理想を丁寧に形にした、公園、水辺、駅前広場などのパブリックスペースを豊富な図面で解説。	忽那 裕樹 平賀 達也 他4名	学芸出版社	2021/2/7
557	エリアマネジメント・ケースメソッド 官民連携による地域経営の教科書	全国のエリアマネ事業から厳選した事例を追体験し、「自分だったらどうする?」を考える。MBA流メソッドで学ぶ組織づくりと人材育成。	保井 美樹 泉山 壘威 他13名	学芸出版社	2021/5/14
558	テンポラリーアーキテクチャー 仮設建築と社会実験	本格的な建築をつくれなければ、まず小さく早く安く実験しよう。都市を軽やかに使いこなす、国内外の事例、制度、アイデア集。	馬場 正尊 加藤 優一 他5名	学芸出版社	2020/12/17
559	水戸の指定文化財	水戸市の指定文化財を把握できるよう、市内の指定文化財全般を掲載し、利用者の便を図る。	水戸市教育委員会	水戸市教育委員会	2010/3/31
560	フェーズフリー コンセプト&ガイドブック	この本にはフェーズフリーという新しいコンセプトやその誕生背景の説明のほか、具体的な活用方法やフェーズフリーに特有の視点の解説を盛り込みました。日常時も非常時も安心して豊かに暮らせる社会の実現に向けて、フェーズフリーを理解するために欠かせない本です。	スペラディウス株式会社 フェーズフリー事業部	スペラディウス株式会社	2017/3/1
561	フェーズフリー デザイン事例集 Vol.00	商品からサービス、ファシリティなどさまざまなジャンルからセレクトした12の事例と共にフェーズフリーデザインの視点やポイントを紹介しています。	スペラディウス株式会社 フェーズフリー事業部	スペラディウス株式会社	2019/9/1
562	公民連携事業ケーススタディブック 2022 Vol.4	まちづくりのはじまりは、いつも誰かが踏み出した小さな一歩があります。そして、「ヒト」と「ヒト」が繋がり、無数の有機的ネットワークが生まれ、小さな化学反応が次々に発生することで、いつの間にかまちが変わっていく。全国各地の公民連携プロジェクトがどのように生まれ成長し、まちを変えていったのか、そのプロセスを紐解いていきます。	公民連携事業ケーススタディ出版委員会	特定非営利活動法人自治経営	2019/9/1
563	ウォーカブルシティ入門 10のステップでつくる歩きたくなるまちなか	ウォーカビリティ(歩行可能性)こそ、現代都市における経済・健康・環境問題を解決するための重要な要素だ。日本でも注目される「ウォーカブルシティ」提唱の第一人者であるジェフ・スペックが、その基本的な考え方を多様な事例とユーモアを交えて分かりやすく整理した、歩きたくなるまちなかを実現するための必	ジェフ・スペック	学芸出版社	2022/9/7

番号	図書名	内 容	著 者	出版社	発刊
564	公共空間の景観力 人を呼び込む街、人が住みたくなる街のデザイン	景観法ができてから10年が過ぎ、各自治体の制度としては定着してきたものの、社会においては「景観」についての理解が進んだとは言いきれない。 コロナ禍で、テレワークや「ワーケーション」と呼ばれる遠隔での働き方がますます増加する今、「働く場」「住む場」の重なりによる「暮らす場」の環境をより意識する傾向が高まってきている。独立時から30年来、「公共空間デザイナー」を名乗り、誰でもがアクセスできる公共空間のデザインを目指してきた著者が、地域に人を呼び込むセンスや環境づくりのポイントを、景観という新しい切り口でまとめた1冊。	藤本 英子	同友館	2022/4/21
565	ストリートファイト 人間の街路を取り戻したニューヨーク市交通局長の闘い	歩行者空間化したタイムズスクエア、まちに溢れるプラザや自転車レーン。かつて自動車が幅を利かせていたニューヨークの街路は、歩行者と自転車が主役の空間へと変貌を遂げた。小さな実践を足掛かりに大きく都市を変え、人間のための街路を勝ち取った、元ニューヨーク市交通局長による臨場感とアイデアに満ちた闘いの記録。	ジャネット・サディク =カーン セス・ソロモノウ	学芸出版社	2020/9/10
566	公民連携まちづくり 事例&解説 エリア再生のためのPPP	「地域の生活の質を向上させるための民間主導のPPP」、「エリアを再生させるための公共空間(公的不動産)の活用」といった観点から、時代の要請に応える地域再生・まちづくりの最新事例と関連する解説を収録した実務に役立つ内容です。公民連携まちづくり、ウオーカブルまちづくり、リノベーションまちづくりを主導する実践者の取り組みを学ぶのに最適な1冊です。	日経アーキテクチュア	日経BP	2022/11/18
567	デンマークのスマートシティ データを活用した人間中心の都市づくり	税金が高くても幸福だと実感できる暮らしと持続可能な経済成長を実現するデンマーク。 人々の活動が生み出すビッグデータは、デジタル技術と多様な主体のガバナンスにより活用され、社会を最適化し、暮らしをアップデートする。 交通、エネルギー、金融、医療、福祉、教育等のイノベーションを実装する都市づくりの最前線。	中島 健祐	学芸出版社	2019/12/5
568	LANDSCAPE DESIGN No.152 前橋市の官民連携によるまちづくり	前橋市の官民連携によるまちづくり/「前橋市アーバンデザイン」策定の背景/「前橋市アーバンデザイン」の概要/前橋市のまちづくりにおける馬場川通りプロジェクトとは/官民連携による空き家活用とリノベーション/まえばしギャラリー/アーバンデザインという物語で共感を得る/しのめ信用金庫(つとにわ) 他	マルモ出版	マルモ出版	2023/8/24
569	多々良沼と城沼に生息する魚たち/図鑑 	多々良沼・城沼の魚類生息種数の減少、生息個体数が著しく多い種の出現などの原因を一つ一つ取り除いていくことが協議会の目的に沿うものであり、具体的な自然再生への活動指針となるものと考えられます。その為に、本書がさらに有効に活用されることを願っています。	多々良沼・城沼自然再生協議会	多々良沼・城沼自然再生協議会	2023/6/1
570	牧瀬流まちづくりすぐに使える成功への秘訣 	まちづくり(地域づくり)をキーワードに注目してまとめた、まちづくりの実践的なガイドブック 著者が実際に関わってきた様々なまちづくりを進めている自治体の事例紹介から、最近のトピックスや注意すべき点、基本的観点を収録し、まちづくりを具体的に進めるためのヒントを提供	牧瀬 稔	経済調査会	2023/6/13